



アシタバ

目次

薬用植物の紹介	薬用植物園長	馬場 きみ江	1
新入生の皆さんへ	学長	矢内原 千鶴子	2
退職挨拶		森 逸 男	3
退職挨拶		草野 源次郎	4
森 逸男教授の退職記念講演(最終講義)に寄せて	臨床化学研究室助教授	藤田 芳 一	5
草野 源次郎教授の退職記念講演(最終講義)に寄せて	環境分析学研究室助教授	三 野 芳 紀	6
創立百周年記念募金事業にお力添えを	創立百周年記念事業委員長	川 島 康 生	7
創立百周年記念事業一奨学金制度の概要	奨学金制度創設委員長	土 井 勝	8
附属薬局に期待する	理事長	川 島 康 生	9
追悼の辞	学長	矢内原 千鶴子	10
平成14年度進路状況		就 職 部	11
大型機器設置	研究委員長/大型共同機器整備計画委員長	天 野 富美夫	15
学生相談室からのメッセージ	学生相談室相談員	掛 見 正 郎	16
第88回薬剤師国家試験の結果と今後の対策	薬剤師国家試験対策委員長	掛 見 正 郎	17
平成14年度後期授業・実習評価アンケート	教務部長	千 熊 正 彦	19
海外留学報告	薬剤学教室助手	岩 永 一 範	21
平成15年度公開教育講座			23
平成15年度市民講座			23
平成15年度学校法人予算	事務局長	肥 塚 敏 彰	24
総務課だより			25
図書課だより			27
経理課だより			27
施設課だより			28
入試・広報課だより			29
学生課だより			31
教務課だより			33
就職課だより			34
人事・慶弔			35
各部・委員会・委員一覧			37
教員研究業績(2002年)			39

アシタバ *Angelica keiskei* KOIDZUMI (セリ科)

これまで「薬用植物の紹介」を担当されておられました草野源次郎教授の後を引き継ぎ、今回から私がこの欄を担当することになりました。そこで最初に、私のライフワークとなっている植物の「アシタバ」をとりあげました。アシタバは房総半島、三浦半島、伊豆半島を中心とする太平洋岸に自生する日本固有のセリ科の多年生草本です。原産地は八丈島と言われています。アシタバ(明日葉)の語源は「今日に種がこぼれると、明日には芽が出る、あるいは、今日に葉を摘むと明日には新しい葉が出る」というように、成長の旺盛な植物であることを意味しています。江戸時代の貝原益軒の著書である「大和本草」には中国・明代の「本草綱目」の鹹草に相当する植物は「アシタという草で、八丈が島の民が朝夕食しているものだ。」と紹介したのが最初とされています。しかし、江戸時代の本草学者である小野蘭山の著書「本草綱目啓蒙」には「貝原益軒のアシタバを中国の鹹草に充てているのは誤りである。……八丈島ではアシタバを食べるので痘瘡がない。」と薬効を記しています。伊豆諸島では古くから、都管草、アシタグサ、アイダグサ、ハチジョウソウとも呼ばれ、若葉を野菜として食するほか、強壮強精、催乳、食欲増進、疲労回復の目的で民間薬としても用いられてきました。また、伊豆諸島でアシタボとも呼びますが、これは新芽を穂と見立てた呼び名と思われる。アシタバは根、茎、葉に多量の黄色物質を含み、その破切面から、黄汁が滲出するのが特徴となっています。私たちはこの黄汁の成分として、これまでに10種類のカルコン類(黄色色素)を単離・構造決定していますが、いずれも特有の化合物です。その中でも主成分はキサントアンゲロールと4-ヒドロキシデリシンです。このほか、セリ科植物に一般的に含まれているクマリン類がありますが、その種類が伊豆大島系(赤茎系)と八丈島系(青茎

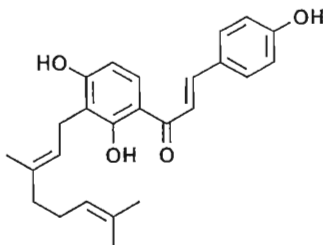
系)では大きく異なっています。アシタバは現在のところ、分類学上、ただ1種とされていますが、少なくとも品種あるいは変種が存在していると推定しています。アシタバと同じセリ科に属する植物は日本、中国、ヨーロッパにおいて重要な生薬になっているものが少なくありません。たとえば、トウキ、ミシマサイコ、ボウフウ、ビャクシ、センキュウ、ウイキョウなどがあります。属名のアンゲリカは「天使」を意味していますが、これは花の咲き方が天使の頭上のリングに似ているという説、同属の植物に薬用とされるものが多く、天使がくれた贈り物という説、死者をよみがえらせるという説などがあります。アシタバが他のセリ科植物のように、生薬として普及しなかった理由のひとつには、日本固有種であり、分布域が非常に限られていたことがあると思われま

す。次に、アシタバを常食としている伊豆諸島では、長寿で健康なお年寄りが多いことから、伝承薬効に基づき生理活性について検討しています。現在までに確認されている主な作用として、以下のものが挙げられます。

1) 血圧降下作用、血管拡張作用、2) 抗血栓作用、3) 胃酸分泌抑制・抗潰瘍作用、4) 抗菌作用、5) 抗アレルギー作用、6) ガン予防作用、7) 抗痴呆作用、記憶障害改善作用などです。

アシタバにはこのほかに、各種ミネラル類、ビタミン類、植物繊維などが豊富に含まれており、優れた「健康野菜」であるといえます。また、最近では「健康食品」としての開発も盛んに行われるようになり、その需要の高まりから日本だけでなく、台湾、韓国、インドネシアなどでも大規模な栽培が始まっています。

(教授 馬場きみ江)



キサントアンゲロール



黄汁が滲出したアシタバの破切面

新入生の皆さんへ

学長 矢内原 千鶴子

大阪薬科大学に入学されて早くも2カ月が過ぎました。この間、桜の花がさつきにかわり、やがてけやきの枝が緑いっぱいにと、キャンパスの草木は不思議なほどに律儀に、季節の移ろいに調和して次々と変化を重ねています。しかし、皆さん方にとっての2カ月は、こうしたあざやかな自然の変化もあまり目にとまらない程あわただしい入学直後の毎日であったかと思えます。「薬学概論」で提出していただいた入学に際しての感想文には、まだ十分分からないとしながらも、薬学を学ぶ喜びと意欲、目的意識の強さを感じさせるものが多く、教員の一人として誠に頼もしく嬉しく思いました。皆さん方のこの気持ちに添えていくことこそが教員一同の責務であると心を引き締めております。

既に始まった講義の中で皆さん方は「薬剤師国家試験」という言葉を幾度となく聞かされたことと思います。この試験に合格することが薬科大学に入学した目的そのものであると考える人々がいる一方で、もうたくさんと受け取っている人も少なからずおられることでしょう。何と言ってもまだ4年も先のことだからと。しかし、いずれにしても、多くの先生がこの言葉を口にされるのは、皆さん方が4年後には全員この目標を必ず達成できるようにとの先生方の熱意の現れであると思えます。

しかし、大阪薬科大学が薬剤師国家試験合格だけを目的に教育しているわけではありません。国家試験合格は薬科大学における教育の最も重要な“目標”の一つであります。しかし“唯一の目的”ではありません。将来に多彩な可能性を秘めた高い能力を持つ本学入学生の皆さん方にふさわしい豊かな薬学教育を目指しているからであります。この4年間の学習をしっかり自分のものとして身につけておれば合格は自ずから約束されるものであり、選ばれて本学に入学した皆さん方にはその能力が十分備わっていると確信しています。

大学では多くの講義があります。それらは、皆さん方が将来どんな職業についても、薬学出身者としての専門性を持って社会に奉仕できるよう、職務の中で起こる様々な問題を薬科学的な知識と解析力・思考力と技術を持って、さらに人間としてあるべき基本に立って解決し、その職責を全うし得るすぐれた人材となるために必要な広く深い内容を含んでいます。一方、各教科の単位の定めによれば、各単位には講義時間の他に、その1～2倍に当たる時間が学修の準備や確認その他に当てられていることを前提にしています。現実的には必ずしも実行されているわけではありませんが、講義の内容だけを全てと

するのではなく、それらは、学ぶべきことの核と考え、自分で参考書なども交え、周辺関連事項も含めて十分調べ、理解した上で身につけて欲しいと思います。薬学ではどうしても覚えなければならない事柄も非常に多いとは思いますが、原理、原則をまず理解することが科学の基本であり、これなくして丸暗記した知識は決して身につくことはないでしょう。そして学習は積み重ねであります。一年次の履修内容は、4年次までに順次高度になっていく講義内容の土台となるもので、これらが十分修得されておらなければ、“薬学”を学ぶことはできないでしょう。今後、4年間、“自ら理解して学ぶ姿勢”を身につけてくださることを願っています。それこそが大学で学ぶことの基本であり意義であるからです。講義で学び自分で学んで身につけた基礎から臨床に及ぶ薬学の基礎が国家試験合格の鍵ともなるでしょう。学習について、大学がその支援を惜しまないの言うまでもありません。国家試験についてもその対策はとられておりますし、対策改善の努力がされています。

一方、薬学出身者が関わる職能は、薬剤師のみならずほとんど全てが直接、間接“人の健康と命”に関わるものであることは言うまでもありません。その責任の重大さを自身の問題として自覚し、他者への十分な配慮ができる教養豊かな人になって頂きたいと思えます。そのための講義も多く用意されています。また、4年間には学習上の問題のみならず、精神的な問題、交友関係など身のまわりに起こる問題も少なくありません。教職員はいつでもその解決に協力、援助できるようにしています。問題に直面した時には躊躇することなく相談してください。

今年の“新入生の皆さんへ”は、いささかお説教じみた内容になってしまいましたが、毎日、ロビーで、廊下で、階段で、はたまたバス停でと、元気に挨拶し合い、時には楽しい会話を交わしながら皆さん方と親しく接するにつれ、4年後には皆さんが一人の落伍者もなく立派に本学入学の“目的”を果たして頂きたいという思いを一層強くしたからであります。厳しい入学試験を突破し、100年の伝統とすぐれた先輩を持つ大阪薬科大学で学ぶことができることへの自信と誇りを持って充実した学生生活を送られることを祈ってやみません。



退職挨拶

森 逸男

昭和42年4月、薬品分析化学教室助教授として大阪薬科大学に着任し、この3月31日をもって定年退職することになりました。前任校、岐阜薬科大学での7年と本学での36年、合わせて43年間を大学教育並びに研究に携わって参りましたが、未だに教育、研究の奥深さ、難しさを痛感しております。

顧みますと、歴史ある大学への赴任時、心細さを感じつつも、教育に、研究にファイトを燃やしていたのが、懐かしく思い出されます。

着任当時、実習室続きの研究室は、白色デコラ張りの実験台に島津直視天秤L2型、ポシュロムスペクトロニック20型分光光度計、東亜電波HM型pHメーターの機器だけの何もないガラんとした空き部屋で、現在のような充実した研究室、実習室からは想像も出来ません。

就任当初より、分析化学のカリキュラムで“容量分析”の講義並びに分析化学の実習を担当してきましたが、昭和42年代の実習は、週2回、2コマ、通年間で、実に充実した「基礎薬学実習」として、実習室は、夜遅くまで化学天秤あるいはビュレットと奮闘する学生諸君に占有されていました。

昭和50年代、榎学長・教授の退任後、千熊教授を迎えるまでの数年間、分析化学教育を1人で担当して参りました。4年次生への特別講義、大学院学生への特論、1～3年次生への「分析化学Ⅰ」、「分析化学Ⅱ」及び「分析化学Ⅲ」など、分析化学関連講義を週6～8コマ、加えて「分析化学実習」と、きわめて多忙な毎日であり教育、研究への情熱を燃やしておりました。

周知のように、昭和44年の薬学科2コース制から薬学科への製薬学科の学科増設、昭和50年の大学院薬学専攻修士課程（前期課程）の設置、次いで昭和59年の博士課程（後期課程）の増設、さらには平成8年の長年住み慣れた高見の里より高槻阿武山学舎への全面移転など、本学は順調な発展を挙げて参りました。その間、これら事業に微力ながらも教務部長、研究委員長、図書館長、学生部長、就職部長、

移転委員長、入試広報委員長、あるいはカリキュラム委員長などとして参画させて頂きました。これらの職務の中で思い出されますのは、1) 昭和45年度の12月まで続いた学内紛争で、故秦教務部長とともにその処理に没頭し、無事に第18期生を3月に送り出し得たこと、2) 教務部長として、パソコンのない、コピーも満足にない中で紙を切りながらのカリキュラム再編成などに苦慮したこと、特に忘れられないのは、3) 学生部長として、センター試験終了直後の阪神大震災…学生の安否確認、試験日程の調整など、その処理に奮闘したこと、さらには4) 卒業式、薬学総合模擬試験、二次入学手続き締切日などを考慮しながら、平成8年3月7日～3月23日の限られた期間内での阿武山への全面移転…大した事故もなく無事終了して、4月11日に第47期生の入学式をこの新学舎で挙げてきた日のことなど、いずれも在職期間の中で忘れられない、大きな思い出として懐古されます。

なお、研究面の回顧につきましては、日本薬学会発行の薬学雑誌【『薬学雑誌』121(10)707-731(2001)】に掲載済みの“定年退官に当たっての研究業績”の総説があり、割愛させて頂きました。

最後になりましたが、幸いにも健康に恵まれ、曲がりなりにも定年退職というゴールのテープを切ることが出来ましたこと、ひとえに本学教職員の皆様をはじめ関係各位のご指導、ご鞭撻の賜物であり、本誌上を借りまして厚く御礼申し上げます。

今後の大阪薬科大学の益々の発展を祈念しながら、本学を去るに当たってのお別れの挨拶とさせて頂きます。





退職挨拶

草野 源次郎

平成2年4月から平成15年3月末日まで、13年間在籍した。この間、学内外の多くの方々にご支援を頂き、大過なく過ごすことができた。はじめにこのことに感謝申し上げる。

私は東北大学で竹本常松教授の研究室に属し研究生活をスタートした。機会があれば、竹本教授が大阪薬学専門学校に赴任して、学生達と相談して結成した回虫研究会とその活動を大学教育の一つのモデルにしたいと思い、本学に赴任した。残念ながらそれを実現できる状況は作れなかったが、回虫研究会の活動が大学教育のモデルになりうるという思いは、今も捨てていない。約50人ほどの学生グループが、竹本教授を中心に、回虫症について学習すると共に、43万件の検便を実施した。その若者達のエネルギーを支えられ、竹本研究室のスタッフは駆虫薬の品質評価のための研究を行い、マクリからカイニン酸を発見した。また、カイニン酸とサントニンのゴールドン処方確立し、回虫症の撲滅に寄与した。回虫研究会からは、多くの有為な人材も育った。このことは若者達が本気にならなければ、その時代の難問は解決できないことを示唆しているように思う。

現在も多くの難問を抱えている。高齢者の多い社会、犯罪者の低年齢化、経済不況と保険財政の危機、環境保全、大規模緊急事態への対処、治安の悪化、麻薬汚染やH I V汚染拡大、インターネットの悪用、学校教育、特に大学教育の諸問題など、枚挙に暇がない。特に、私は若者達がそれらの問題を自分達も解決に参加すべき問題として捉えようとし、現実には、大きな危機意識を抱いている。

大学での講義などでも、学生が教師に向かってそこがよくわかりませんか、その文字が薄くて見えませんかといえ、済む状況をそのままに過ごし、アンケートにそのように回答する態度に危機を感じてきた。教師が学生に誠意を持って接するのは当然であるが、学生も教師に対し誠意を持って接するのが当然である。若者達の側から、この当然の人間関係を築けないことに危機意識を抱いてきた。多くの大学で同様の問題を抱えているのだから、自分達の大学で解決してやろうという野心が学生達にないのも不満であった。もっとも、そのような野心を引き出せなかった者として、力量不足は痛感しているところでもある。

ここ数年、先生達が大きな努力を払ってきたが、

それに見合うほどには国家試験の合格率が上がっていない。私が赴任した頃の学生達は薬剤師の国家試験に不安を抱いている様子は無く、自分達の実力(努力)で当然合格するというプライドのようなものを抱いており、これが伝統の強みだろうと感じられた。最近では4年次生になったら、国試対策をして貰えるという情報が低年次生まで行き渡り、1年次後半から3年次いっぱい、本気で学ばない学生が多くなったと感じられた。特別実習の形骸化傾向も目立つようになった。国試々々ということで、学生たちの目標も国試合格になり、その対策が本格的に始まるまで、アルバイト情報などに関心を払っているように思われた。合格率が上がらないのは、国試内容が変化したことも原因であろうが、学生達の心掛のこの変化が大きな原因であると感じられた。学生達が自ら熱くなって学力や専門技量を身につけることに貪欲になるのでなければ、次の時代を担う薬剤師に成長するとは思えない。

薬学は大きな転換期にある。薬学は医学、理学、農学、工学などの自然科学や法学、経済学、社会学などの人文科学などの関連領域から影響を受けながら、あるいは影響を与えながら、独自の領域を確立し、充実発展させることを使命にしている。このことは見方を変えれば、薬学領域で発達させた事柄が医学、理学など他の関連領域に取り込まれ、埋没する可能性も示唆しているように思われる。ゲノム科学が進歩し、医学、生物学(理学)などが再構築されている。多くの病気がゲノムの構造、機能、発現などの不全として位置付けられ、これまで明らかにされてきた、病理学、診断学、治療学等の知見は、ゲノム科学を核にして整理されるのであろう。そのときの薬学の特徴はどう理解されているのであろうか、今後の進歩が大変興味深く思われる。教育は大切であるが、先生達が転換期の時代の流れに乗って、生き生きと活躍をしてみせることがもっと大切であろう。学生達は先生達のその姿に刺激されて熱くなる。若者達の熱気が次の時代を育てると信じている。

東北地方で生まれ育った者が、大阪の地でその雰囲気のようなものを感じる機会を持ったことを大変貴重な経験とと思っている。感謝申し上げると共に、皆様のご発展をお祈り申し上げます。

森 逸男教授の退職記念講演(最終講義)に寄せて

臨床化学研究室助教授 藤田 芳一

平成15年3月20日(木)、草野源次郎教授に続き、はじめの予定より少し遅れましたが、午後3時10分より2A教室で「回顧」の演題で、森 逸男教授の最終講義(退職記念講演)が行われました。矢内原学長の冒頭の御紹介では、「森先生は、この退職記念講演に際し、お話しするのを大変嫌がっておられた」とのことでした(実は本当は講義されるのは大変好きなのです)が、始まると同時にすぐに、森先生のいつもの少し早口の口調で、徐々に熱っぽく御講演されました。御講演の内容は、大学教員としての三つの重要な事柄の教育、研究、学内行政に関するものでした。まず分析化学の講義と同様に、分析方法とその感度並びに単位に関する内容から始まりましたが、その中で、「単位と塵埃、清浄との関係」のお話は、特に印象深く拝聴させていただきました。次に、先生の40年に及ぶ研究内容について、先生御自身をご用意された薬学雑誌の別冊(薬学雑誌, 121, 707-731, 2001年)を参考に、先生のライフワークである有機試薬の合成と性質に関する研究、金属イオン及び生体関連物質の光分析法(メンブランフィルター前濃縮法、高次微分法の導入等も含め)に関する研究について、初期の時代の貧弱な機器(その当時は、自記分光光度計は勿論なく、ポシュロム型分光光度計のみでした)での研究苦労話も含めながら、概略説明されました。これらは、現在でも私共研究室の主要テーマであり、今後も受け継ぎ、さらに進展させようと思っております。

最後は、学内行政に関するお話でしたが、数多くの役職(教授時代には、学生部長、就職部長、教務部長、図書館長をはじめ多くの委員長や法人理事、法人評議員などを歴任されました)の中から、特に移転時に就任されていた移転委員長の際の苦労話を中心に熱く語られ、ほぼ予定の時間通り御講演を終えられました。御講演終了後、現助手の山口敬子さん、教室出身で弓道部(森先生は、弓道部、箏曲部、観世流能楽部の顧問をされていました)OGで現馬場教室院生の中森輝恵さん、元助手の生田絹子さん、教室2期生で退任事業委員会委員長の泉 揚子さんの順で花束が先生に贈呈された後、満場の拍手のうち、無事退職記念講演会が終了しました。

当日は、年度末の忙しい時期にもかかわらず、学内

の諸先生をはじめ、職員、学生の皆さんが多数御参集下さいました。紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。また、平日でありながら、教室出身者など多くの卒業生がご出席下さいました。これもひとえに森先生のご人徳によるものと存じます。

森先生におかれましては、ご健勝で退職記念講演を終えられ、ご退職されますことは本当におめでたいことと存じます。今後とも、奥様とともに、お体には十分留意され、御自愛下さいますよう心からお祈りしております。また、薬学および本学には、幾多の難題が山積しておりますので、ご退職後も、宜しく御指導下さいますようお願い致します。



草野 源次郎教授の退職記念講演(最終講義)に寄せて

環境分析学研究室助教授 三野 芳紀

3月20日(木) 本学講義室2Aにおいて、「植物から学ぶ」の演題で、草野源次郎先生の最終講義(午後1時~2時30分)が執り行われました。

当日は、年度末のお忙しい中、学内の先生方をはじめ、職員、学生の方々が多数ご参集下さいました。この誌面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。また、平日にもかかわらず、教室出身者を中心に学外からも多くの方々が出席して下さいました。これも草野先生のお人柄ゆえかと思われまふ。

草野先生は、平成2年4月本学に教授として着任され、本年3月にご退職になられるまでの13年間、学生の教育と研究の両面において、実に熱心にご指導されました。特に、学部教育においては、1年次での「薬学概論」、「薬用植物学」、「生薬学1」に始まり、2,3年次での「生薬学2」、「天然医薬品学」、「東洋医学概論」に至るまで、「草野先生の授業がない学年はない」と言われるほど、多くの科目を熱心に講義されました。その講義内容がかなり高度であったので、対応していく学生の方も大変だったと思いますが、そのお陰で本学学生の生薬関連の知識が大いに鍛えられたことと思います。もちろん、4年次での特別実習や大学院での教育・研究においても学生たちを熱心にご指導され、その結果、多くの新規化合物の発見につながりました。それらの成果は、種々の学術雑誌に発表されています。また、この間、薬用植物園園長をはじめ、多くの要職を歴任され、本学の発展に貢献されたことは言うまでもありません。

さて、最終講義では、先生のライフワークである「サラシナショウマ属植物の成分研究」をはじめ、本学の薬用植物園を効率良く使用し、国内の薬用植物園の協力を得て展開された「カンゾウ属植物に関する研究」、今まで見逃されがちであった水溶性塩基性成分をターゲットにした「糖質水解酵素阻害活性を示す植物に関する研究」など、多岐にわたった内容を大変分かりやすく、また予定時間を少しオーバーしてしまうほど、ご熱心に講義されました。特に、重要生薬であるカンゾウについて、その優良品種候補を選抜し、国産カンゾウの生産が実現味を帯びてきたこと、糖質水解酵素阻害活性を示す植物や

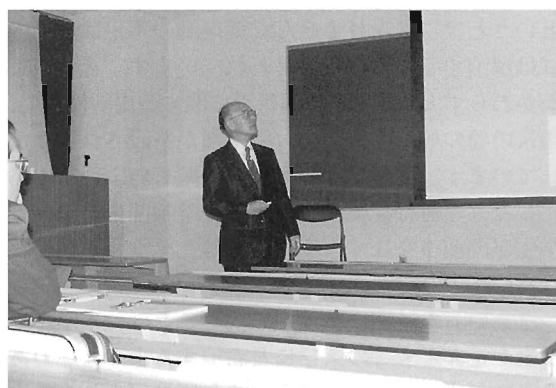
植物成分が糖尿病で苦しんでいる人々を助ける治療薬や予防薬となり得ることなど、大変興味深く拝聴させて頂きました。最終講義と言いながら、これからさらに夢に向かって挑戦しようとする「熱意」を、強く感じさせるものでした。今後とも、本学の生薬関連教室に足を運ばれ、後進の指導も、積極的にお続け頂ければ幸いです(最終講義で使用された最初のスライドを図に示します)。

最後になりましたが、草野先生が大変お元気で退職の日を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。また、永年に亘り本学にご尽力頂いたことに感謝を申し上げるとともに、今後の益々のご発展をお祈り致します。

図 草野教授 最終講義スライドから

植物から学ぶ

植物から多くのことを学び取った人達の偉業に接し、圧倒されながらも感激し、この道を選び歩んだ。植物から学び取る技術を磨き、植物と出会い、学び取る努力をした。夢に向かって元氣よく過ごし、大きな喜びを経験し、発想も豊になれたと感謝している。



創立百周年記念募金事業にお力添えを

創立百周年記念事業委員長 川島 康生

大阪は道修町の片隅に、本学の前身である私立大阪道修薬学校が呱呱の声をあげてから来年で100年になります。先年松原から高槻へキャンパスを移すに際して、教職員にも同窓会員にも更には関係する業界にも多大の御支援をうけてから日尚浅く、この際は周年事業を見送ろうとの考えもありました。しかし、100年というのは何とも大きな節目であり、次の機会は100年後にしかめぐって来ないことを考えると、矢張りこの際、何らかの事業を行うべきであろうということになりました。

それではどのような記念事業を行うべきかということについて、教職員の間で検討して頂きましたところ、記念式典や祝賀会の開催、百年史の発行、記念碑や記念植樹といったことのほかに、主たる事業として学生への奨学金制度をこの際確立してはどうかという案が大方の賛同を得るところとなりました。

実はここ数年、本学の受験生は少しずつ増えていきます。このことは私学経営にとってこの上なく有り難いことで、少子化が進む現在ではとりわけその思いを深くします。それは医薬分業によって薬剤師の需要が高まったことにもよりますが、本学の評価が受験生の間で高まっているからではないかと思えます。松原の学舎を大英断をもってこの学園都市高槻に移し、今日の素晴らしいキャンパスを整備された先達の英知と、他大学に比べて多いとはいえない人数で学生に優れた教育をして下さっている矢内原学長をはじめとする教員と職員の努力の賜でしょう。

とは云いながら、薬科大学の将来は必ずしも安泰というわけには参りません。薬剤師の不足は数年内には解消するであろうと言われています。それにもかかわらず大学設置、学部新設に関する規制緩和で、雨後の筍の如く薬科大学・薬学部が新設されようとしています。又薬学部6年制の問題もいよいよ本格化しそうな雲行きです。つまり、薬学部を希望する学生が門前市をなすような状況は、そう長く続くとは言い難いのです。

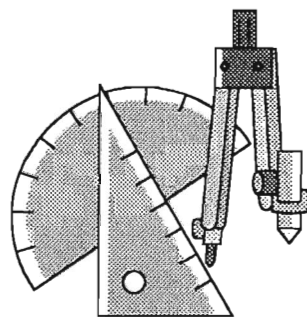
そういった時期に私達がすべきことは、本学を受験生が是非ともこの大学にと希望するような魅力ある大学にすることでしょう。それには何よりも学生

に良い教育を施して良い卒業生を世に送り出すことです。しかし、そのために多くの良い学生を集めるためには、学生にとって青春の一時期を楽しく過ごせるような受け入れ体制の整備も求められるところです。即ち教授陣の充実が第一であり、キャンパスの整備が第二でしょう。

それでは第三は何でしょうか。それが今回本学創立百周年を迎えるに当たって、その主たる記念事業として計画することになった奨学金制度の確立です。この点で本学は若干他大学に後れをとっています。百周年記念に際してこれを整備し、学生の受け入れ体制を一層充実させて、本学の評価を更に高めたいと考えているのです。

その基金として1億円を集めたいと考えています。今日の低金利時代にこれでは何程の果実も生みませんので、当然のことながら法人としてもその活動には財政支出も考えています。しかしともかくも本学に奨学金制度を確立したいというのがその狙いです。

集められた基金は学校法人会計基準に則り、第3号基本金として運用する予定であり、法人としての経理に余裕ができれば、漸次充実させていくことも考えられます。どうか教職員の皆様にもこの趣旨に御賛同頂き、是非とも可愛い学生達の為に特別の御配慮を頂き、協賛を賜りたいと考える次第です。宜しく御願ひ申し上げます。



創立百周年記念事業—奨学金制度の概要

奨学金制度創設委員会委員長 土井 勝

平成16年5月に、本学は創立100周年を迎えます。これを記念する事業を興すことになり、永続性のある事業がふさわしいとの考えから、奨学金制度の創設を中枢に据えることが理事会で決定されました。それを受けて、学生諸君にとって魅力ある制度となるよう検討を重ねてきましたが、基本方針が固まったので、ここに概要を説明します。

§ 1. 背景と基本理念

本学には、育友会に「育友会奨学金」制度があり、毎年10名程度の学生が恩恵に浴しています。同窓会にも、学費納入が困難な4年次生に限り、就職が内定していることを条件に、1年分の授業料相当額の融資を金融機関に斡旋し、債務を保証する制度があります。その一方で、学校法人が設ける奨学金制度がなく、教育機関たる大学として、手抜かりの感をまぬがれ得ませんでした。

学生の本分が学業であるからには、学習意欲を高揚させ、なお一層の学力向上を図るために、金銭的な面から刺激策が講じられてもよいでしょう。また、経済的に十分でない学生向けに貸付制度を持つことは、学ぶ意味を深く考えさせ、自立心の涵養にもつながります。加えてまた、近年の経済環境の悪化により、授業料納入に難渋する学生が目立ち始めたのに、金融機関が融資に応じなくなるなど、同窓会の融資斡旋制度が機能しなくなっています。新たに設ける奨学金制度を企画するに当たり、以上のような方策と背景に対処できるものであることを目指しました。

本学が計画している奨学金制度は、大きく2つに類型化されます。一つは、学習意欲を刺激し、学業を支援して、有為な人材を育成することを目指すもので、学校法人が寄付金を募って「教育奨学基金」を創設し、①顕彰型(優良な学生を表彰する)と②支援型(経済的事情で修学環境が十分でない学生を援助する)の2制度を設けます。今一つは、学費納入が困難な学生を救済して、学業の継続を可能にするもので、育友会に「融資基金」を設け、③救済型(学費の納入が困難な学生を救済する)の制度を発足させることになっています。

§ 2. 制度の概略

以下に各制度の概略を説明します。

①特待奨学金制度(顕彰型)[給付]

学習意欲を刺激することを目的に、学力・人物ともに優秀な学生を表彰します。前年の成績に基づき毎年、1学年当たり学業優秀者3~5名に、1名につき数十万円を給付する予定です。大学院学生および課外活動等で顕著な貢献をした個人または団体も、対象になります。なお、毎年選考において、繰り返し奨学生となることができません。

②一般奨学金制度(支援型)[貸与+給付]

学業、人物ともに優良であるが、経済的な事情で十分な修学環境が整わない学生を支援するものです。申請により、学部生は各学年につき5名程度に、月額4万円(無利子貸与)と1万円(給付)を併給する予定です。大学院学生については、月額5万円(無利子貸与)と1万円(給付)を若干名に併給します。奨学生となる期間は1年ですが、毎年審査で繰り返し奨学生となることができません。なお、大学院在籍中は返還が猶予されます。

③学費融資制度(救済型)[融資]

学費支弁者の死亡、破産、失職や罹災などで、学費を納入できない学生を救済します。学費融資の申し込みに対して、大学と育友会による2段階審査を経て融資の可否を決定します。学生一人につき、1回の融資額は当該学生が納入すべき学費を超えないものとし、また在籍期間中の融資限度額は2年分の学費相当額となる見込みです。学生本人に無利子もしくは低利で融資し、融資金は学費として直接法人に納入する形式をとります。学籍を離れてから年賦返還しなければなりません。

以上の3制度は、創立100周年に当たる平成16年度からスタートします。これによって本学は、一挙に、包括的で先進的な奨学金制度を備えた大学に変貌します。学生の皆さんの福祉に資することを期待します。

附属薬局に期待する

理事長 川島 康生

理事長に就任して間もなく、本学に附属薬局があることを聞きました。しかしその時にはそれがどれだけの意味を持つのか、残念ながら十分には理解できませんでした。医療の現場に40年も身を置きながら、薬学教育については薬剤師の免許を持っている家内から聞くことが唯一のnews sourceでした。

薬局があると聞いた時に思ったのは「医学部に附属病院があるのだから、薬学部にも附属薬局があっても当然だろう。しかしあまり聞いたことがないな」という程度のことでした。薬学教育の中に占める臨床薬学の比重が大きくなるとともに、本学としても学生の実習・研修のための薬局を持つという考えから、松原からのキャンパス移転後、時ならずしてこれを実現させたということは後になって聞いたことでした。

「百聞は一見に如かず」と就任後間もない日に附属薬局を訪ねました。勿論長年の病院勤務の経験、特に病院長としての経験もありますので、病院薬局についてはかなりのことを知っているつもりであり、それ程目新しいことはありませんでした。しかし教育施設ということを考えて十分なスペースがとられていること、conference roomが設けられていること、更には将来の在宅医療の普及も見越して、輸液調剤の為の設備が備えてあることなど、色々な工夫がされているのには感心しました。

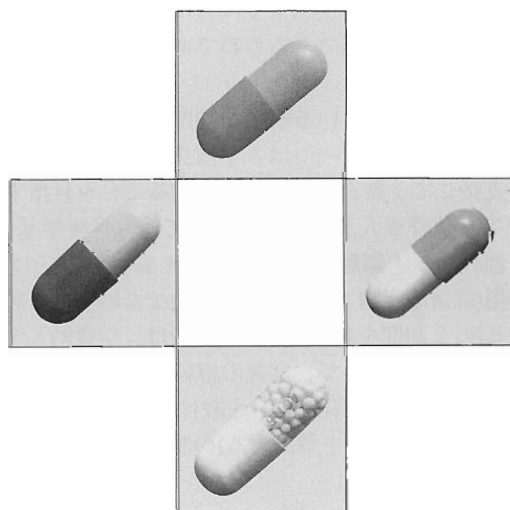
薬局長や副薬局長から、この薬局の現状について報告を受け、一般の薬局としては過大な設備投資のため、経営の状態が必ずしも思わしくない、はっきり言えば毎年相当の赤字を出しているということも聞きました。この薬局の赤字を如何にして縮小させ、経営を改善するかということは理事会や予算委員会でつねに論じられているところです。

残念ながら今日の医療は統制経済そのものであり、調剤の報酬も国によって定められ、付加価値をつけてもそれに見合う収入は期待できません。従って特別に薬剤を安価に購入するとか、人件費を大幅にカットするのでもなければ、一気に経営を改善するのは不可能と思われまふ。そこで考えられることは、薬局をもっと違った方向で活用することにより、その存在価値を高めるということです。

現実に附属薬局は近隣の薬局に対する医薬品の分譲業務を行って地域医療に貢献していますし、地域薬剤師の卒後研修にその場を提供してもあります。しかしこの薬局は本来本学学生の教育に役立てるべく設立されたものですから、その目的に沿った有効利用をしてこそ存在価値を高めることになるものと思います。即ち教育という無形の利益を含めた収支を考えるのでなければ、バランスをとることは困難です。本薬局は残念ながら今日までのところは必ずしも教育的活用が十分ではなかったように思うのです。

今日、附属薬局を持っている薬科大学は全国でわずか3校と聞いています。そして薬学教育6年制への時の流れに沿って、附属薬局の重要性を口にする薬科大学経営者は少なくありません。この時期に文部科学省も新しい教育システムの創造を推奨していますが、我々は他にいまだ数カ所しか存在しない薬科大学附属薬局を上手に使用して、斬新な学生実習カリキュラムを作れないものでしょうか。学長以下教職にある皆様方に大いに期待しております。

現在赤字経営ということで、聊か大学のお荷物のようにみられている附属薬局を、創意と工夫で教育に有効利用することにより、本学に一段の輝きを与える組織にすることはできないものでしょうか。理事長の夢を申し上げます。



追悼の辞

学 長 矢内原 千鶴子

本学前理事長西村壯一氏ご逝去の報に接したのは昨年9月で、同6月に健康上の理由でご退任されてより僅か3カ月後のことでありました。難しい問題を抱えた任期最後の理事会、評議員会を理事長として、大きな混乱もなく、一つの方向にまとめられた時の先生に、大阪府行政官、特にその管理職としての長年のご経歴の中で培われた、何者にも代え難い調整力を痛切に感じたことでありました。当時ご入院中ではありましたが、外出許可を得て会議に出ておられ、外で食事ができる口実になって嬉しそうに言っておられたのが思い出されます。ご退任後そんなに早く訃報に接するとは思ってありませんでした。

先生に初めてお会いしたのは、平成11年11月でありました。初対面にも拘わらず大きな声で威圧するように迫られ、まるで理不尽に叱られているように感じ驚いたのが正直なところでありました。その後、部屋を隣り合わせることになりましたが、職務上の必要時を除いて静かに落ち着いてお話することもなく、お互いに人として心の琴線に触れるような機会もなかった3年間であったことは残念でなりません。ご葬儀の後、大学にご挨拶に見えられたご子息様のお人柄に触れて、そのご長男のご尊父であられた先生の、私には知り得なかった人としての奥深さに思いをめぐらせておりました。その後、先生が大阪府庁ご在職時に関係者の間で評判であったという冊子“企画室あれこれ”（通称西村語録）を拝見する機会がありましたが、上司として折々に発せられた厳しくも機知に富む、そして大阪的ユーモアに溢れる名言の数々を楽しませて頂きました。本学理事長ご在職中には接し得なかった先生のお人柄の一面でありました。

先生には、本学が松原学舎よりの移転を完了し、高槻においての教育・研究が新たに軌道に乗り始めた時にご就任いただきました。新築移転という大事業の後では、経営上の問題も多く、目に見えないご苦労もあったことと思います。かつて大阪府副知事ご在任中に結ばれた幅広い人脈もあり、それを通じて地元高槻市との関係にもたいへんご尽力いただきました。平成13年9月には、本学創立百周年記念事

業準備委員会を立ち上げ、平成16年10月の記念式典の開催やその他の事業の計画に率先して積極的に取り組んでおられました。忘半ばでご無念であったことと思います。

3年に満たない短い間であったとはいえ、理事長・学長という関係の中で大阪薬科大学の最も責任の重い職務を担う立場にありながら、先生を十分支えきれなかった私の非力を改めて深くお詫びし、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

西村 壯一

昭和30年3月 京都大学経済学部卒業
昭和30年4月 大阪府 入庁
昭和54年12月 大阪府 企画部長就任
昭和59年6月 大阪府 総務部長就任
昭和62年6月 大阪府 副知事
平成3月6月 大阪高速鉄道株式会社 代表取締役社長
平成5年5月 学校法人大阪薬科大学 評議員
平成5年6月 学校法人大阪薬科大学 理事
平成11年6月 学校法人大阪薬科大学 理事長
平成13年4月 勲三等瑞宝章
平成14年6月 学校法人大阪薬科大学 理事長退任
平成14年9月 逝去
平成14年9月 従四位



故 西村壯一氏

平成14年度進路状況

就 職 部

イラク戦争による先行き不透明感の高まり、大幅な株安や国際情勢の緊迫化、重症急性呼吸器症候群（SARS）等で景況感は悪化し、景気は長期停滞中です。

薬系大学卒業生の就職状況は景気の低迷や、患者の医療費負担増を含む医療保険制度改革の中、急速な医薬分業の進展（2002年12月現在 51.2%：日本薬剤師会）等により厳しいながらも堅調に推移しています。病院薬剤師の数が現状維持か削減の傾向となる一方、製薬企業の活発な新薬発売や、調剤業務を含む薬局薬剤師の需要が高まり、その結果、卒業生の就職状況が大きく様変わりしております。更に、就職協定の実質的廃止により企業の就職試験の時期が大幅に繰り上がり（一部は3年次生の2月下旬頃）、また、求人情報にインターネットを利用するところが多くなっています。学生にとっての就職活動はこれらの変動に対応していかなければならず大変厳しい状況にあります。

このような状況下で今春卒業した学部学生284名（男性90名、女性194名）の進路状況は（表1）に示すとおりでした。国家試験合格後に進路決定を希望する者を除き、ほぼ100%の進路決定率となっており、次のような特徴がみられます。

1) 薬局

調剤およびOTCを対象とする薬局への就職率は7～8年前では数%でしたが、平成14年度でほぼ28.9%になり、最も高い就職率の業種となりました。医薬分業の進展で、保険薬局の増設が急速に進められつつあり、ここ数年はこの分野での薬剤師の需要は増え続けるものと思われます。

2) 病院・診療所および病院研修生

病院・診療所における就職率は、従来から20数%でしたが平成9年度（20.5%）から減少傾向がみられ、平成14年度は15.1%となりました。病院の求人は基本的には欠員募集しかなく、5年前に厚生省（現厚生労働省）により打ち出された病院における薬剤師の配置基準なども影響し、特に大病院では狭き領域になっております。

病院研修生（7.0%）については研修後の基幹病院への就職が厳しくなっています。

3) 薬業関連企業

この分野への就職率は年ごとに低下傾向にあり、今春卒業生の場合、男性13名、女性26名で全体の13.8%と過去最低となっています。求人数の多い医薬情報担当者（MR）への決定が男性より女性が多い傾向となっておりますが、内勤領域（研究・開発、学術、品質管理、管理薬剤師）への就職はますます厳しくなっております。

4) 公務員・教職員

この職域への就職率も従来より下回る傾向で2.1%でした。

5) 大学院進学

大学院進学が27.5%となり大幅に増加しています。これには、文部科学省が大学院の拡充を強力に推進していることや、薬系大学の修業年限の延長が議論されていることなどが影響していると思われます。

6) その他

この項の16名の多くは、薬剤師免許取得後にそれを必要とする職種（例えば病院・薬局）への就

職を決めようとする者であり、薬剤師国家試験が難しくなっている状況からこのような考え方の学生が多くなってきています。この場合でも、薬剤師免許を取得すれば、その後には全員就職が決定しています。

一方、大学院修了生の就職は各担当教員の指導のもとで決定され、平成15年3月修了の大学院学生（42名）の場合も、ほぼ100%の就職率となっていますが、職種内容の多様化で「数」より「質」を優先する厳選採用の流れは、さらに強まっています（表2）。

学部卒業生及び大学院修了生の進路先を、（表3）にまとめました。



平成14年度 学部卒業生(50期生)進路状況

（表1）

（平成15年3月31日現在）

区 分	男	%	女	%	計	%	
薬 局	22	24.4%	60	30.9%	82	28.9%	
病院・診療所	8	8.9%	35	18.0%	43	15.1%	
病院研修生	3	3.3%	17	8.8%	20	7.0%	
薬業関連企業	(MR)	12	13.3%	16	8.2%	28	9.9%
	(内勤)	1	1.1%	10	5.2%	11	3.9%
公務員・教職員	3	3.3%	3	1.5%	6	2.1%	
大学院進学	35	38.9%	43	22.2%	78	27.5%	
そ の 他	6	6.7%	10	5.2%	16	5.6%	
計	90	100%	194	100%	284	100%	

平成14年度 大学院(博士前期課程)修了生(27期生)進路状況

（表2）

（平成15年3月31日現在）

区 分	男	%	女	%	計	%
薬 局	1	3.4%	4	30.8%	5	11.9%
病院・診療所	4	13.8%	2	15.4%	6	14.3%
病院研修生						
薬業関連企業	(MR)	3	10.3%		3	7.1%
	(内勤)	16	55.2%	4	30.8%	20
公務員・教職員	2	6.9%			2	4.8%
大学院進学(博士後期課程)	3	10.3%	1	7.7%	4	9.5%
そ の 他			2	15.4%	2	4.8%
計	29	100%	13	100%	42	100%

(表3)

平成14年度学部卒業生(50期生)の
進路・進学先

公務員

厚生労働省(検疫所)	2	大分市	1
京都市	3	国立大阪(非常勤)	1
		計	7名

病院研修生

滋賀医科大学医学部附属病院	2	広島大学医学部附属病院	1
京都大学医学部附属病院	4	大分医科大学医学部附属病院	1
大阪大学医学部附属病院	10	和歌山県立医科大学附属病院	2
		計	20名

病院

赤穂中央	1	光愛	1
朝日野総合(熊本市)	1	恒昭会	3
医誠会	1	済生会松山	1
石切生喜(藤井会)	1	貞本(松山市)	1
大道	1	新金岡豊川総合	1
学園前	1	太子	1
加茂	1	武田病院グループ	1
岸和田徳洲会	3	天理よろづ相談所	2
貴生	1	徳洲会	1
喜多医師会	1	徳永	1
岐阜中央	1	馬場記念(堺市)	1
京都武田	2	福井愛育	1
京都南西	1	みどりヶ丘	4
協和会	2	洛西シミズ	1
近畿大学医学部附属	1	大阪警察(非常勤)	1
錦秀会	1	和歌山労災(非常勤)	1
		計	42名

大学院(博士前期課程)進学・その他

北海道大学	2	大阪府立大学	1
金沢大学	3	立命館大学	1
神戸大学	1	近畿大学	1
奈良先端科学技術大学院大学	1	大阪薬科大学	58
岡山大学	5	金沢大学(医学部3年編入)	1
横浜市立大学	1	皇學館大学(神道学専攻科)	1
大阪市立大学	2		
		計	78名

薬局・小売

アインファーマシーズ(札幌市)	5	スズキ薬局(滋賀県)	1
アルカ調剤薬局	1	セガミメディクス	2
育星会	3	総合メディカル	3
イトーヨーカ堂	2	ダイコク薬品	1
ウェルパーク	1	ダイヤライフ	1
大阪ファルマプラン	2	高岡調剤薬局	1
カトウ薬局	1	たんぼぼ薬局(岐阜県)	1
かなぎ薬局	1	栃本天海堂	1
金光薬品(倉敷市)	1	ドラッグライオン	1
関西メディコ	3	ナガタ薬品	2
協立薬品	2	日本調剤	4
近畿予防医学研究所	1	萩薬局	1
クラフト	1	阪神調剤薬局	6
クローバー薬局	1	フォルサム	1
幸和ドラッグ	1	ぼうしや薬局(姫路市)	1
コクミン	10	マツモトキヨシ	2
サエラ薬局	3	ユー・ピー・ディー	1
サンプラザ調剤薬局	2	ユタカファーマシー	3
神薬堂	1	リジョイス薬局	2
スギ薬局(愛知県)	4	レーベンジール	1
		計	82名

薬業関連企業・その他

アボットジャパン	1	大日本製薬	1
大塚製薬	1	武田薬品工業	5
杏林製薬	1	日本イーライリリー	1
協和発酵工業	1	日本医学臨床検査研究所	1
クラヤ三星堂	2	日本ペーリンガーインゲルハイム	2
三共	3	日本メジフィジックス	1
塩野義製薬	7	ファイザー製薬	1
新日本科学	1	万有製薬	1
スズケン	1	山之内製薬	2
住友製薬	2	ヤンセンファーマ	2
セブントーセブン	1		
第一製薬	1		
		計	39名

平成14年度大学院(博士前期課程)修了生(27期生)の進路・進学先

公務員		
和歌山県	1	大阪大学医学部附属病院放射線科(非常勤)
京都市	1	
		計 3名

大学院(博士後期課程)進学		
大阪市立大学	1	大阪薬科大学
		計 4名

病院		
阿知須同仁	1	社会保険栗林
石切生喜	1	恒昭会
協和会協立温泉	1	津山中央
		計 6名

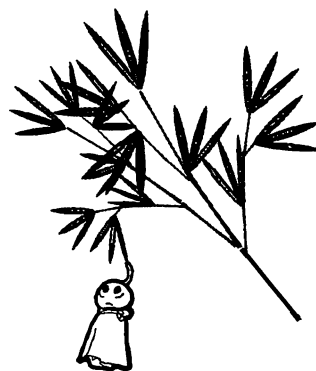
薬局・小売		
イトーヨーカ堂	1	セガミメディクス
大阪ファルマプラン	1	テイオーファーマシー
		計 5名

業業関連企業・その他		
アベンティスファーマ	1	セブンツセブン
乾商事	1	全星薬品工業
エーザイ	1	東和薬品
小野薬品工業	2	日東電工
片山化学工業	1	日本オルガノン
加美乃素本舗	1	日本製薬
クインタイルズ・トランスナショナル・		日本ベーリンガーインゲルハイム
ジャパン	1	バイエル薬品
グレラン製薬	1	藤本製薬
塩野義製薬	1	ロート製薬
新日本科学	2	
		計 23名

平成15年度4年次生(51期生)進路希望状況(個人面談結果)

(平成15年4月30日現在)

区	分	男	%	女	%	計	%
薬	局	19	19.4%	47	23.4%	66	22.1%
病院・診療所		9	9.2%	44	21.9%	53	17.7%
病院研修生		4	4.1%	9	4.5%	13	4.3%
業業関連企業	(MR)	24	24.5%	23	11.4%	47	15.7%
	(内勤)	1	1.0%	22	10.9%	23	7.7%
公務員・教職員				6	3.0%	6	2.0%
大学院進学		31	31.6%	45	22.4%	76	25.4%
自家業・その他		10	10.2%	5	2.5%	15	5.0%
計		98	100%	201	100%	299	100%



大型機器設置

研究委員長／大型共同機器整備計画委員長 天野 富美夫

平成14年度、本学は5カ年計画で、文部科学省の私学助成研究事業、「ハイテクリサーチセンター整備事業」をスタートさせることができました。その研究課題は「DNA・RNA結合分子を標的とした疾病の発症機序の解明とその診断・予防および治療薬の開発への応用」で、矢内原学長を代表者とし、本学の教員23名が参加する一大プロジェクト研究です。

これは、21世紀の薬学研究の推進のため、専門領域におけるさまざまな研究を統合・重点化してハイテクリサーチセンターを整備することにより、有機的なつながりを持つ「総合薬学研究領域」を設置す

ることを目指しています。とりわけ、本学のもっとも独創性の高い研究が集約されている「DNA結合分子の構造と機能に関する研究」を基盤として、これに立脚した「疾病の発症機構の解明」をはかるとともに、その研究成果を用いて「疾病の診断・予防と治療薬の開発」を行うことをその目的としています。

この研究を推進し、本学における研究環境を整備するとともに、研究活動をより一層活性化して多くの成果を得るために、平成14年度の本学における大型機器の設置は、以下の3点に決まり、既に研究棟1階の中央機器研究施設にそれぞれ導入を完了しました。

	機器の名称	主な用途	設置場所	管理責任者
1	共焦点レーザースキャン顕微鏡	形態観察像における蛍光強度の分布測定	測定室3	天野富美夫
2	蛋白質解析トータルシステム	微量タンパク質の分離・同定および解析	タンパク質構造解析室	辻坊裕
3	ICP質量分析装置	生体成分中の微量元素の多数同時分析	元素分析室	千熊正彦

共焦点レーザースキャン顕微鏡は、細胞や組織中の抗原を抗体で検出し、それを蛍光標識した二次抗体などで高感度に検出する装置です。そのほか、膜電位の測定や細胞内Ca²⁺の濃度変化、DNAの切断、細胞骨格の構造変化などについても検出・定量することが可能です。また、UVレーザーを備えているため、breachingという手法で細胞内の構成成分をピンポイントで除去することも可能になり、細胞の持つ修復機能を観察することも可能です。この装置の導入によって、細胞の微細形態を高感度に観察することが可能になり、細胞や組織内におけるDNA結合分子の動態を形態学的に解析することが可能になります。また、これらの情報を疾病の診断に役立てたり、治療薬の投与に伴う形態の変化を追跡することも可能になります。

蛋白質解析トータルシステムは、現在MALDI TOF-MSおよびVoyager Biospectrometryが納入され、微量タンパク質およびペプチドの質量分析を高感度に行ってその由来を同定することが可能です。なお、平成15年度の大型共同研究機器整備計画によりこのシステムをさらに高度に稼動するため、定量的ディフュージョン解析システムを導入することが推進され協議されているところです。これらが一体となりますと、細胞あるいは組織内で、異なる条件において発現されるタンパク質の網羅的な解析を自動的かつ高感度に行うことが可能になります。本学におけるプロテオーム解析を本格的に始動し、DNA結合分子の構造・機能の解析、ならびに疾病の発症機構の解明

が進むことが期待されます。

ICP質量分析装置は、これまでの元素分析装置に比べて、より多様な分子に結合したり、あるいはまたこれを構成したりする元素を高感度に分析することが可能な装置です。本学の特徴ある研究分野の一つに、核酸に結合する金属錯体の研究があります。この研究をさらに発展させ、また抗がん活性や抗微生物活性を持つ天然物や生薬の有効成分に含まれる微量元素を多数、しかも同時に分析することが可能になります。また化学合成医薬品の中にも、DNAやRNAなどの核酸に結合して作用を発現することが考えられるものがあり、これらの分析にも大きな力を発揮するものと期待されます。

以上、述べましたように、大変多くの、高い機能をもつ機器が導入されました。これらの機器を有効に利用してハイテクリサーチセンタープロジェクトを推進し、さらにその関連分野の研究にも応用していくためにも、これらの機器が活用される必要があります。そのため、それぞれの機器の管理責任者を中心にして、その使用法や測定の原理についての講習会を開催し、なるべく多くの教職員や大学院学生、学部学生の研究に利用していただくように努めております。これらの機器の納入が平成14年度の後半であったこともあり、現時点ではまだ本格的な稼動に至っていない状況ですが、今後いろいろな技術指導講習会やテクニカルセミナー、研究発表会等を通じて、使用頻度が高まり、研究成果が得られることを期待しています。

学生相談室からのメッセージ

本学に学生相談室が設置されて、4年目に入りました。この度、これまでの相談員、板倉佐恵子氏に替わり、木曜日に岡鈴佳相談員、金曜日に児玉陽子相談員が担当することとなりました。どうぞ、よろしく願いいたします。

大学や大学院は、学業の場であるだけでなく、対人関係の場であり、生活の場であり、将来の進路を決める場でもあります。学生相談とは、長い学生生活の間に、学業、対人関係、学生生活、進路などの領域において、さまざまな問題に対して、心理的な援助を行うことです。

一口に大学生といっても、それぞれの時期に特有の悩みもあります。

入学期であれば、新しい生活環境に慣れ、人間関係を築いていくこと、受験生としてのこのころの問題を終わりにすること。

中間期であれば、自分らしさの追求、より深い対人関係の構築、スランプ。

卒業期であれば、進路の問題、新しい社会へ出て行くことのこのころの準備。

大学院では、学生から研究者、職業人への移行に対する不安と期待。

その他、学生生活も多様化しており、対人関係の問題、恋愛と性、親子関係、身体的な問題、また、事故や病気や死などの思わぬ出来事等、多くの課題に直面することでしょう。

20歳という年齢を過ぎて社会的には大人とみなされるようになりますが、大学生という年齢は、精神的にも子どもから大人へ移行していく時期でもあります。この時期には、思春期危機といわれるほど、生きていく上での多くの課題を乗り越えなければなりません。多くの悩みがあって当然の時期なのです。

悩み、考えることは時には重くつらい作業です。また、どんなに悩んでも考えても、魔法のように解決することはできないことの方が多いと思います。カウンセリングを受けたからといって、すべてがすっきり解決する、ということは少ないと思います。本当につらいときは、なぜ苦しいのか、何に悩んでいるのか、言葉にすること、誰かに話すことすらできないことがあります。そこから一歩進んで、誰かに話してみよう、話すことで整理してみよう、と思えるようになれば、今後進んでいくべき方向が少



児玉 陽子



岡 鈴佳

し、見えてくるのだと思うのです。

学生の皆さんも、日々さまざまな問題について悩み、考え、時には友人や家族などに相談して、自分なりの答えを見つけておられることでしょう。でも、問題の大きさにところが押しつぶされそうになったり、解決までの道のりが長すぎて、疲れきってしまったというこも、あるかもしれません。もちろん、日々の小さな問題についても気軽に、また、一人で抱えきれないと悩んだときはいつでも、学生相談室の扉を叩いてほしいと思います。

学生相談室の相談員（臨床心理士）は、学生生活全般についての、間口の広い「一般性」と、発達やこのころの健康についての奥行き深い「専門性」の両方を持つよう努力して、皆さんの来室を待っています。ぜひ、学生相談室と、学生相談のカウンセラーという存在を知って、必要なときには積極的に利用していただきたいと思います。

今年度も、実り多き1年でありますように。

(児玉陽子 記)

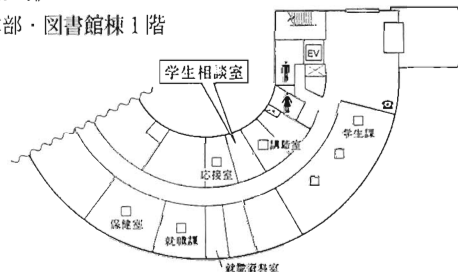
開室時間

毎週木曜日 12:00～15:00 岡 鈴佳

毎週金曜日 12:00～15:00 児玉 陽子

《場所》

本部・図書館棟1階



tel : (072)690-1077(直通)

mail : counsel@gly.oups.ac.jp

第88回薬剤師国家試験の結果と今後の対策

薬剤師国家試験対策委員長 掛見 正郎

第88回薬剤師国家試験の合格者発表が4月23日、厚生労働省で行われた。本年度の大阪薬科大学の薬剤師国家試験成績(表1)は、全体合格率75.37%(全国34位、私学26位)、新卒合格率84.15%(全国33位、私学23位)、これらは全国平均の合格率を遙かに下回る悲惨な結果であった。例年この発表に先だって、何処からともなく全国薬系大学の合格順位が流布される習わしになっているので、覚悟も出来ていたつもりではある。しかし、改めて結果を突きつけられてみるとやはり暗澹たる思いである。しかもこの5年間、強力な国家試験対策を行っているにもかかわらず、本学の成績はずっと低迷したままで、上昇する気配さえ見えない状態である。しかしながら、今から20年以上も遡ってみると(表2)、本学の薬剤師国家試験の成績は、「殆ど何の対策も講じなくても」全国上位10校の常連校であったこと、これが大阪薬科大学の(やや地味ながら)輝かしい伝統であったことを記憶されている方は多いはずである。ではいつ頃から国家試験成績の低迷が始まったのだろうか。それは皮肉にも、入学試験の偏差値が高騰を始めた1990年頃からと見るのが妥当であり、1995年に瞬間風速が吹いて一時的に回復はしたものの、その後も長期低落傾向は本年まで全く止まってはいないと思われる。これを科目別成績(表3)で見るともっと明白である。すなわち、以前は全国平均点を下回る科目など皆無であったのに対し、この5年間、本学はほぼすべての科目で全国平均点を下回り、特に「基礎薬学」の成績の悪さが際立っている。これが本学の薬剤師国家試験の現状なのである。

私が「薬剤師国家試験対策委員会」を任されるのは実に8年ぶり、当時と今では科目名も問題数も異なっており、また全国薬系大学の置かれている状況も全く様変わりしている。その間、国家試験予備校や国家試験参考書の寡占化が思いの外進展しており、以前の経験など何の役にも立たないことが思い知らされたというのが実感である。予防線を張って申し訳ないけれど、今のところ「国家試験成績を向上させる起死回生の方略・妙案」などあろうはずはなく、あるのは極めて地味で在り来りなことながら「本学教員一人一人の協力と、学生の地道な努力」のみである。ここでは、本年度の薬剤師国家試験対策委員会の方針を、去る5月2日に4年次学生に実施した「薬学総合演習オリエンテーション」の骨子に従って述べることにする。

[基本方針]

1. 本年度の国家試験対策/薬学総合演習は、本学教員があくまでも主体となって行い、予備校等の外部講師とも協力して、効率的に授業を進めること。

2. 授業には、目標、方略の具体的提示と、学生の学習到達度の評価を徹底して行い、その学習到達度別クラス編成を行って、学生の能力に適った授業を進めること。
3. 本年度の国家試験対策/薬学総合演習は、短期間に集中して行うため、主として後期のみを実施すること。
4. 4回の総合試験と、全国統一模擬試験を国家試験の様式(各2日間)に準じて実施し、その結果を学生の弱点克服に活用すること。
5. 薬学総合演習の単位認定は、2月に連続で2回実施する正規試験で評価するが、その基準は「第89回薬剤師国家試験に合格するレベルに到達している」かどうかで判断すること。

この他、これまで本学では既卒者に対して積極的な対策をとってこなかったが、卒業後数年経過した受験生の国家試験成績は極めて良くないことが判っている。そこで本年度は願書提出時等に面接を義務化することで、合格する見込みのない受験生の安易な受験を防止したいと考えている。また、本年度は卒業延期学生には、例年以上にきめ細かな特別措置を行い、これら学生の国家試験全員合格を目指したいと考えている。

以上、第88回薬剤師国家試験の結果と今後の対策について、現状分析を一部交えながら述べてきた。しかし、本年度いくら最適な国家試験対策が実施されようと、結果がついてこなければ何の意味もないことは承知している。より良い成果に向かって委員会として最善を尽くしたいと考えているので、関係教職員をはじめ各位のご協力をお願い申し上げる次第である。来年の学報には、より良い報告が出来るよう祈念している。

(表1) 新規卒業生の第88回国家試験成績

区 分		受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	全国平均	
第88回 (H.15)	薬学科	男	38	30	78.95%	88.52% (89.17%) 23位
		女	120	108	90.00%	
	計	158	138	87.34%		
	製薬 学科	男	52	44	84.62%	
		女	74	57	77.03%	
	計	126	101	80.16%		
総 数	284	239	84.15%			

() 内は私立大学

順位は本学の私立大学における順位

(表2) 大阪薬科大学の国家試験合格率の変遷

		総合成績				新卒成績			
		合格率	私学平均	総合順位	私学順位	合格率	私学平均	総合順位	私学順位
第54回	1978年	73.23%	61.21%		6	79.66%	71.88%		6
第56回	1979年	82.43%	77.83%		11	85.35%	85.38%		14
第58回	1980年	91.64%	84.43%		6	93.86%	90.41%		6
第60回	1981年	92.01%	81.28%		2	94.95%	86.79%		3
第62回	1982年	92.23%	82.00%		4	95.36%	87.24%		4
第64回	1983年	78.41%	80.85%		15	81.60%	85.37%		17
第66回	1984年	79.68%	73.77%		8	81.05%	78.07%		11
第68回	1985年	84.13%	80.53%		9	87.59%	85.32%		16
第70回	1986年	67.87%	64.86%		13	71.95%	69.85%		13
第72回	1987年	91.51%	91.17%		17	96.50%	94.71%		12
第73回	1988年	87.94%	86.65%		15	91.81%	89.72%		12
第74回	1989年	89.62%	85.40%		8	92.75%	89.72%		8
第75回	1990年	86.35%	86.65%		20	89.59%	90.62%		19
第76回	1991年	84.54%	81.35%		14	87.54%	86.35%		16
第77回	1992年	67.66%	73.48%	27	22	70.34%	80.17%	34	26
第78回	1993年	75.50%	81.85%	31	26	79.26%	89.23%	34	28
第79回	1994年	71.11%	75.08%	22	20	86.61%	85.00%	13	13
第80回	1995年	80.56%	74.11%	7	7	93.51%	83.25%	1	1
第81回	1996年	82.85%	78.59%	12	11	88.00%	86.49%	15	12
第82回	1997年	80.86%	76.74%	14	13	87.20%	84.75%	18	15
第83回	1998年	69.35%	74.90%	27	23	72.14%	83.48%	36	26
第84回	1999年	70.00%	78.75%	39	28	74.39%	87.09%	42	28
第85回	2000年	79.14%	81.52%	25	21	87.94%	89.28%	26	20
第86回	2001年	72.29%	77.30%	34	26	80.12%	84.79%	35	25
第87回	2002年	73.11%	82.16%	39	28	84.95%	89.12%	35	25
第88回	2003年	75.37%	81.18%	34	26	84.15%	88.25%	33	23

(表3) 薬剤師国家試験 学校別・科目別・換算点
第88回 (2003年) 第87回 (2002年)

		受験者	平均点	基礎薬学	衛生薬学	薬事法規	医療薬学
全国 (A)	合計	10,850	70.46	64.73	69.59	76.57	72.60
	新卒	8,345	72.55	67.00	71.16	77.78	74.91
	その他	2,505	63.51	57.16	64.37	72.54	64.90
本学 (B)	合計	402	68.71	62.46	69.40	74.74	70.59
	新卒	284	70.88	64.74	71.51	75.83	72.92
	その他	118	63.47	56.98	64.34	72.12	64.99
差異 (B)-(A)	合計		-1.75	-2.27	-0.19	-1.83	-2.01
	新卒		-1.67	-2.26	0.35	-1.95	-1.99
	その他		-0.04	-0.18	-0.03	-0.42	0.09

		受験者	平均点	基礎薬学	衛生薬学	薬事法規	医療薬学
全国 (A)	合計	11,148	68.43	63.12	63.46	80.93	70.65
	新卒	8,367	70.45	65.31	65.41	82.53	72.69
	その他	2,781	62.34	56.53	57.59	76.11	64.53
本学 (B)	合計	424	66.59	60.55	62.10	80.26	68.82
	新卒	299	69.18	63.02	64.61	82.54	71.56
	その他	125	60.37	54.64	56.12	74.80	62.25
差異 (B)-(A)	合計		-1.84	-2.57	-1.36	-0.67	-1.83
	新卒		-1.27	-2.29	-0.80	0.01	-1.13
	その他		-1.97	-1.89	-1.47	-1.31	-2.28

第86回 (2001年)

		受験者	平均点	基礎薬学	衛生薬学	薬事法規	医療薬学
全国 (A)	合計	10,683	67.44	64.64	69.32	73.81	67.15
	新卒	8,208	69.53	66.96	71.41	74.88	69.30
	その他	2,475	60.51	56.96	62.40	70.25	60.03
本学 (B)	合計	415	66.61	62.71	70.23	73.18	66.26
	新卒	332	68.55	64.96	72.46	74.28	68.08
	その他	83	58.86	53.69	61.30	68.80	58.98
差異 (B)-(A)	合計		-0.83	-1.93	0.91	-0.63	-0.89
	新卒		-0.98	-2.00	1.05	-0.60	-1.22
	その他		-1.65	-3.27	-1.10	-1.45	-1.05

第85回 (2000年)

		受験者	平均点	基礎薬学	衛生薬学	薬事法規	医療薬学
全国 (A)	合計	11,529	68.24	68.41	73.15	78.07	64.88
	新卒	8,620	70.53	70.97	75.39	80.24	67.07
	その他	2,909	61.47	60.84	66.53	71.63	58.41
本学 (B)	合計	374	67.77	66.24	73.29	78.16	64.96
	新卒	257	70.03	69.05	75.37	80.51	67.00
	その他	117	62.79	60.07	68.72	72.99	60.47
差異 (B)-(A)	合計		-0.47	-2.17	0.14	0.09	0.08
	新卒		-0.50	-1.92	-0.02	0.27	-0.07
	その他		1.32	-0.77	2.19	1.36	2.06

平成14年度後期授業・実習評価アンケート

教務部長 千熊 正彦

平成13年度から始められた授業評価アンケートは、1～4年次生を対象に特別実習を除くすべての講義・実習・演習について行われています。本アンケートの目的は、「授業の内容やレベルが学生にとって妥当であり、理解させる配慮が充分になされているかを学生に問うと共に、講義に関するそれ以外の意見や要望を聞き、これを元にして授業をより学生に分かりやすく、また、学生主体の授業へと改善していくこと」(学報44号)であり、さらに、継続的に評価アンケートを行うことにより、「各年度の時系列による総合評価の解析が可能となり、それによって初めて説得力のある講義担当者に対する授業評価が可能となる」(学報46号)とあります。

平成14年度後期の集計結果では、設問の多くが3.5ポイント以上であり、平成13年度後期の集計(学報45号)とほぼ同様の結果でありました。

本年度教務部委員会においてアンケートの今後の取り扱いなどについて協議いたしました。結論は得ておりませんが、継続性が重要ですので、設問内容など変更しないでしばらく続ける方向で考えております。一方、アンケートはデータを集計した後、授業担当者に手渡しておりますが、容積がかさばるなど保管上の問題が指摘されております。

アンケート用紙には講義あるいは実習に対する希望や意見を学生が自由に書ける自由記載スペースを設けてあります。その記載に対する回答を含めて、教員側からのメッセージを提出していただき、学生がそれを閲覧できるように教務課にファイルしております。今後とも学生および教員の皆さまには本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

最近、薬学教育ワークショップが各地で開催されるなど、教育学の観点から見た薬学教育やカリキュラム編成の方法論などが注目されています。私達教員は、次世代を担う薬学生のために、教育効果を上げることにもっと目を向ける必要があるように感じます。かえりみれば、私自身も学生に知識を伝授することには熱意を注いできましたが、学生が理解してくれたかどうかの評価は、定期試験に合格したかどうかのみで行うことが多く、評価の結果は学生自身にはフィードバックされていなかったのではないかと反省しています。講義すべき内容の量と質が、

講義終了時に期待される成果に結びつかなければなりません。この授業評価アンケートが、教員の教育手法および学生、教員両者の態度、習慣が妥当であるかを判断する一つの材料として活かされるよう切に祈ります。

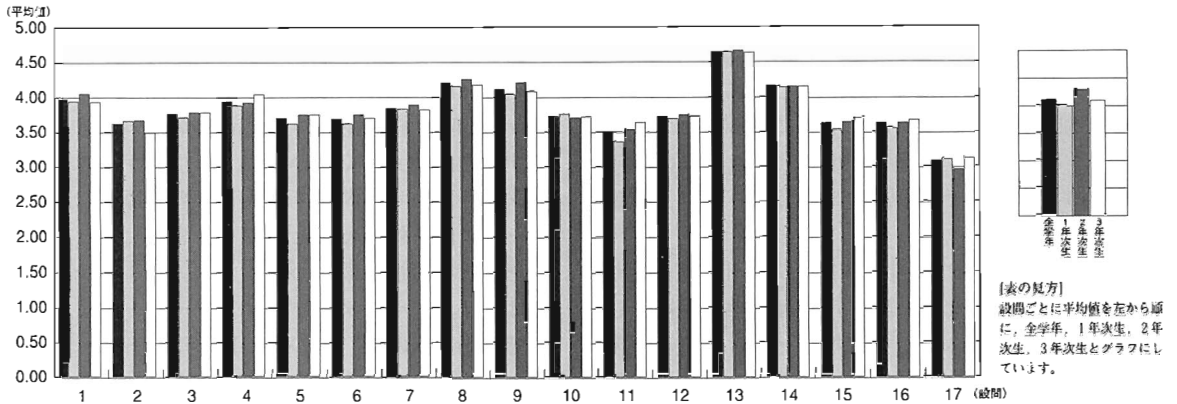
	全学年	1年次生	2年次生	3年次生
延べ履修人数	11,394名	4,362名	3,292名	3,740名
延べ回答人数	6,292名	2,357名	2,062名	1,873名
回答率	55.2%	54.0%	62.6%	50.1%

〔設問〕

1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書が適切で授業の理解に役立ちましたか
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されておりましたか
4. 授業は、「授業の内容」(シラバス)に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分で理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされておりましたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されておりましたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. テキストやその他の教材を使用していた場合、それは適切に行われておりましたか
10. 休講があった場合、その補いは十分にされておりましたか
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切と思われますか
12. この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください
(5-非常に良い、4-良い、3-普通、2-あまり良くない、1-良くない)
13. あなたは、この授業によく出席しましたか
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力(予習・復習等)しておりましたか

回答は、5-そう思う(5ポイント)、4-どちらかといえばそう思う(4ポイント)、3-どちらともいえない(3ポイント)、2-あまりそうは思わない(2ポイント)、1-そうは思わない(1ポイント)から選択。但し、設問2、9、10については、0-該当しない(0ポイント)を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。

2002年度後期授業評価アンケート集計



全学年

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.97	35.2%	37.3%	18.9%	6.5%	2.0%	-	0.0%
2	3.62	22.7%	31.8%	27.2%	11.1%	3.3%	4.0%	0.0%
3	3.76	26.1%	36.2%	27.0%	8.4%	2.2%	-	0.1%
4	3.94	29.9%	35.7%	31.3%	1.4%	0.5%	-	1.2%
5	3.70	23.9%	37.1%	26.9%	9.3%	2.8%	-	0.0%
6	3.69	23.5%	34.5%	31.6%	8.0%	2.3%	-	0.1%
7	3.84	29.3%	34.2%	29.4%	5.3%	1.6%	-	0.2%
8	4.20	44.6%	36.3%	14.6%	3.0%	1.3%	-	0.1%
9	4.11	37.9%	34.9%	17.5%	3.3%	1.1%	5.2%	0.2%
10	3.73	12.4%	7.8%	13.9%	1.9%	1.7%	60.8%	1.6%
11	3.50	15.3%	35.2%	36.4%	9.9%	2.9%	-	0.3%
12	3.72	21.2%	39.7%	28.4%	7.4%	1.9%	-	1.4%
13	4.64	73.4%	18.2%	6.6%	1.0%	0.3%	-	0.4%
14	4.16	42.3%	35.6%	17.6%	3.2%	0.8%	-	0.4%
15	3.62	21.4%	33.5%	33.1%	8.9%	2.7%	-	0.4%
16	3.62	21.7%	34.0%	31.6%	9.4%	2.9%	-	0.4%
17	3.07	10.4%	22.0%	40.9%	16.6%	9.6%	-	0.5%

1年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.94	35.9%	34.5%	19.8%	7.0%	2.8%	-	0.0%
2	3.66	25.8%	31.0%	27.5%	9.7%	4.1%	1.9%	0.0%
3	3.71	26.0%	34.5%	27.2%	9.2%	3.0%	-	0.0%
4	3.88	27.0%	36.0%	33.3%	1.6%	0.6%	-	1.5%
5	3.62	23.8%	34.1%	26.9%	10.9%	4.2%	-	0.1%
6	3.62	21.2%	32.8%	35.8%	7.6%	2.7%	-	0.0%
7	3.83	28.9%	32.7%	31.9%	5.0%	1.5%	-	0.0%
8	4.16	41.5%	38.2%	16.1%	2.8%	1.1%	-	0.1%
9	4.04	35.4%	31.5%	18.5%	4.3%	1.6%	8.4%	0.3%
10	3.76	9.9%	4.7%	10.4%	1.2%	1.2%	70.5%	2.1%
11	3.36	13.7%	30.5%	37.5%	14.0%	4.2%	-	0.2%
12	3.69	20.2%	39.9%	27.8%	8.1%	2.4%	-	1.6%
13	4.64	75.1%	16.0%	7.1%	1.2%	0.6%	-	0.1%
14	4.15	41.4%	37.1%	17.3%	3.2%	0.8%	-	0.1%
15	3.53	18.9%	31.8%	36.3%	9.4%	3.6%	-	0.0%
16	3.56	19.3%	34.1%	33.2%	10.2%	3.2%	-	0.1%
17	3.11	9.5%	23.8%	42.7%	15.8%	7.9%	-	0.3%

2年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.05	37.4%	38.2%	17.7%	5.4%	1.3%	-	0.0%
2	3.67	24.2%	33.8%	28.2%	11.6%	1.8%	0.4%	0.0%
3	3.78	27.5%	35.1%	27.3%	8.2%	1.8%	-	0.1%
4	3.92	30.2%	33.0%	33.7%	1.5%	0.4%	-	1.3%
5	3.75	25.4%	36.9%	26.5%	9.4%	1.8%	-	0.0%
6	3.75	25.8%	34.6%	30.5%	7.2%	1.8%	-	0.1%
7	3.89	30.5%	35.9%	26.9%	4.8%	1.6%	-	0.3%
8	4.26	46.2%	37.5%	13.0%	2.4%	0.8%	-	0.0%
9	4.21	42.4%	37.7%	15.6%	2.3%	0.5%	1.5%	0.0%
10	3.71	12.9%	8.3%	15.1%	1.9%	1.9%	58.5%	1.3%
11	3.54	15.4%	36.0%	37.6%	8.4%	2.3%	-	0.2%
12	3.75	23.0%	38.3%	29.4%	6.6%	1.6%	-	1.2%
13	4.66	73.4%	18.6%	6.1%	0.7%	0.3%	-	0.9%
14	4.16	42.2%	35.7%	17.1%	3.2%	0.9%	-	0.9%
15	3.65	22.4%	33.3%	31.8%	9.5%	2.1%	-	0.9%
16	3.64	23.0%	32.4%	31.8%	8.8%	3.1%	-	0.9%
17	2.96	9.9%	19.5%	38.6%	18.8%	12.3%	-	1.0%

3年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.93	31.9%	39.9%	19.2%	7.0%	1.9%	-	0.1%
2	3.49	17.0%	30.5%	25.5%	12.2%	4.1%	10.5%	0.1%
3	3.78	24.8%	39.5%	26.3%	7.7%	1.5%	-	0.2%
4	4.04	33.3%	38.3%	26.3%	1.0%	0.5%	-	0.6%
5	3.75	22.4%	41.1%	27.3%	7.2%	2.0%	-	0.1%
6	3.70	24.0%	36.4%	27.5%	9.5%	2.5%	-	0.1%
7	3.82	28.6%	34.1%	29.2%	6.2%	1.7%	-	0.3%
8	4.18	46.6%	32.7%	14.5%	4.0%	2.2%	-	0.1%
9	4.08	36.0%	35.9%	18.3%	3.2%	1.2%	5.2%	0.2%
10	3.72	14.8%	11.1%	16.8%	2.7%	1.9%	51.3%	1.4%
11	3.64	17.2%	40.0%	33.7%	6.5%	2.1%	-	0.4%
12	3.72	20.3%	40.9%	28.0%	7.4%	1.8%	-	1.5%
13	4.63	71.4%	20.7%	6.7%	0.9%	0.2%	-	0.3%
14	4.16	43.6%	33.6%	18.4%	3.3%	0.7%	-	0.4%
15	3.71	23.5%	35.9%	30.6%	7.4%	2.2%	-	0.3%
16	3.68	23.2%	35.6%	29.5%	9.0%	2.4%	-	0.3%
17	3.13	12.0%	22.4%	41.1%	15.4%	8.8%	-	0.4%

海外留学報告

薬剤学教室助手 岩永 一範

私は、平成13年7月から平成14年12月までの1年6か月間、米国ワシントン州シアトルにあるワシントン大学薬学部に留学する機会を頂きました。この1年6か月間のシアトルでの生活について振り返り、記したいと思います。

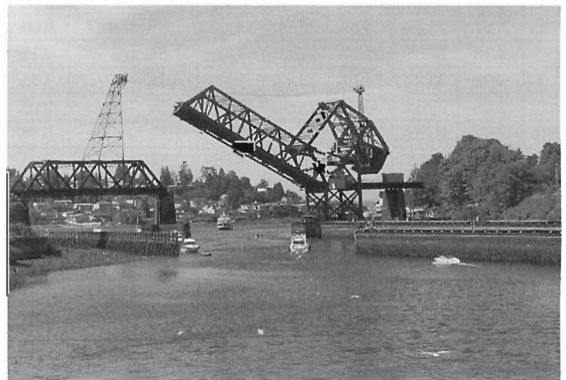
留学先を最終的に米国に決めたのは出発の約8か月ほど前で、それまでの数か月間は留学先候補としてスウェーデンもあがっており、どちらにするか迷っていました。しかし、スウェーデンの場合、言葉に対する不安が大きく、最終的に米国に決めました。スウェーデンとは異なり、「英語圏の国に行くのだ」という安心感からか、出発まであまり英会話の練習をしなかったのですが、これがどれほど甘い考えであったかを米国到着初日に痛感させられました。

ワシントン州は米国の最も北西に位置しており、関空から約9時間弱（往路）で行くことができます。また、北はカナダ国境と接しており、シアトルからバンクーバーへの日帰り旅行も可能です。ワシントン州はノースカスケードと呼ばれる山脈で大きく二分されており、その東西で気候も全く異なっています。山脈より西は、近くを通る暖流の影響で、北海道よりも高い緯度に位置しているにもかかわらず、真冬でも氷点下になることはまれで、雪も年に1回降る程度です。しかし、10月から4月頃までは1週間のうち6日は雨が降る雨期にあたり、初めて雨期を経験する私にとっては結構幸いのものでした。この雨期のため、州内で最も西に位置するオリンピック半島には、世界的にも珍しい針葉樹のジャングルが形成されており、ムースやピューマなどの野生動物が生息しています。夏は日本とは異なって乾燥しており、最高気温も25度程度までしか上がらず、いわゆる「アメリカ西海岸」の極めて過ごしやすい気候で快適でした。一方、東へ向けての2、3時間のドライブで山脈を越えると、突然、砂漠に近い気候に変わり、夏はかなり暑く、冬は厳しい寒さが待っています。

私の滞在したシアトル市は、州内西部のウオーターフロントに位置する人口53万人の神戸市の姉妹都市ですが、NYやLAと比べると小さな田舎町です。米国内でも特に緑、湖の多い美しい地域でワシントン

州は「Evergreen State」、シアトル市は「Emerald City」と呼ばれ、住民の自然志向が強いことも特徴です。さほど大きくないダウンタウンからはワシントン湖、ユニオン湖、エリオット湾や標高4,392mのレーニエ山を眺めることができ、高層ビルとマッチした美しい風景が楽しめます。シアトルの企業としては、任天堂やスターバックスコーヒーのような日本でも馴染みの深いものや、近郊には、ボーイング社、マイクロソフト社やイミュネクス社等の企業もあり、コンピュータ産業、バイオテクノロジー産業も盛んです。また、治安に関しても、米国内の都市の中でも極めて安全な都市の1つで、「米国人の住みたい都市」の上位に必ずランキングされるほど非常に住みやすい町でした。しかし、最近までは日本人にとって、もう一つ馴染みのうすい町でしたが、近年、メジャーリーグベースボールのシアトルマリナーズにイチロー、佐々木、長谷川ら日本人選手が移籍し、目覚ましい活躍をしていることから、シアトル市の知名度も徐々に上がってきているようです。実際、私も何度かマリナーズの本拠地であるセーフコ球場に観戦に行きましたが、多くの日本人客がわざわざ応援に来られていたのと、球場内の「マリナーズ」なる店屋で「イチロー」や「大魔神ロール」という名前の巻き寿司や、日本酒まで販売されていたのには少々驚かされました。

ワシントン大学は1861年創立の西海岸では最も古い州立大学の1つであり、1.7km四方の広大なキャンパスや大学フットボールチーム所有のハスキースタ



休日には多くのヨットが行き交うチッテンデン水門



マリナーズの本拠地セーフコ球場

ジアム（72,500名収容）があり、約35,000名の学生を擁する総合大学です。私が研究を行った研究室は、ユニオン湖畔に建つMedical Centerに隣接するHealth Science Buildingという医学部、大学病院、歯学部、薬学部にも所属する無数の研究室が集まったビルディング内にありました。薬学部はPharmacy、Medicinal Chemistry及びPharmaceuticsの3つのdepartmentから成り立っており、それぞれが7、8のグループを有しています。私の所属したpharmaceuticsのうち、多くのグループが薬物代謝に関するテーマでMedicinal Chemistryのグループと共同研究を行い、また大学病院が移植医療に力を入れていることもあり、臓器移植後の薬物療法に関して、医学部やPharmacyのグループと共同研究を行うなど、お互いの研究が円滑に進むような万全の協力体制がとられていました。私が所属したThummel教授のグループは、ポスドク2名、テクニシャン2名、ドクターコースの学生6名から構成されており、主に薬物代謝、遺伝子多型（一塩基置換：SNPs）解析などの研究を行っていました。このうち私は、主として「アゾール系抗真菌薬の小腸CYP3A4阻害効果」に関して、細胞培養系を用いた実験を行いました。また別に、健常人ボランティアを募り、SNPsに関する臨床実験を行いました。日本ではまだ、基礎研究に関して臨床実験を行うことは極めて困難ですが、このような実験の一部に携われることができたことは、非常に貴重な体験でした。細胞培養系の実験からは、使用したアゾール系抗真菌薬のうち、イトラコナゾールのCYP3A4酵素の阻害はイトラコナゾールの血中濃度からは予測できず、副作用回避の観点から同酵素で代謝される薬物を併用する際には、投与タイミングを慎重に検討すべきこと、また臨床実

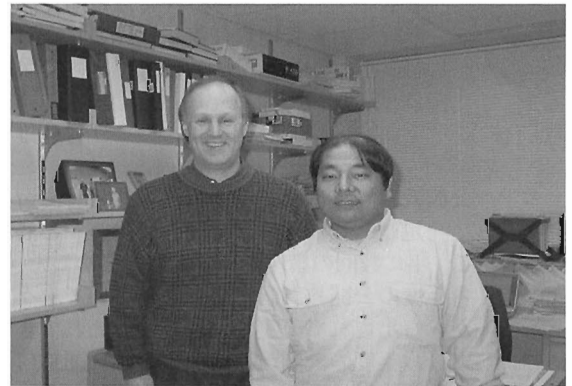
験からは、フルコナゾールのCYP3A阻害効果の一部に、African-Americanに多く見られるCYP3A5のSNPsが関与していることなどを明らかにすることができました。

1年半の留学期間にも関わらず非常に短く感じましたが、ショックを受けるほどの様々な体験ができ、私のみならず私の家族の人生においても貴重な経験であったことは間違いありません。今後は、この経験を様々な場面で生かしていきたいと思っています。

最後になりましたが、このようなすばらしい経験をさせて頂き、また留学期間延長の許可を与えて下さいました理事長、学長、掛見先生をはじめ、関係諸先生方に感謝いたします。



春には桜が満開になるメインキャンパス



Thummel教授と

□ 平成15年度公開教育講座 □

第34回 大阪薬科大学公開教育講座

日時：平成15年6月21日(土)13:30～17:00
場所：梅田スカイビルタワーウエスト22階会議室E
受講料：本学卒業生 2,000円／その他 3,000円
主 題：『高齢化社会における医療と薬学・薬剤師(1)』
演題／講師：「高齢者と病気」
堺市立八田荘老人ホーム健康管理医師
神木照雄
「高齢者への薬物療法」
大阪市立大学医学部附属病院薬剤部副部長
小川雅史

第35回 大阪薬科大学公開教育講座

日時：平成15年9月27日(土)13:30～17:00
場所：梅田スカイビルタワーウエスト22階会議室E
受講料：本学卒業生 2,000円／その他 3,000円
主 題：「高齢化社会における医療と薬学・薬剤師(2)」
演題／講師：「高齢者の介護と介護保険」
大阪府健康福祉部高齢介護室参事・医師
福島俊也
「高齢者医療における薬剤師の仕事」
セブンファーマシー薬局長 七海陽子

第36回 大阪薬科大学公開教育講座

日時：平成16年2月28日(土)13:30～17:00
場所：梅田スカイビルタワーウエスト22階会議室E
受講料：本学卒業生 2,000円／その他 3,000円
主 題：「高齢化社会における医療と薬学・薬剤師(3)」
演題／講師：「くすりの安全性—高齢者のくすり,市販後調査—」
日本イーライリリー(株)医薬情報部長・
市販後調査管理責任者 多良寛雅
「高齢者の立場から—医療制度,社会保障制度,環境およびその問題点—」
前高槻市長 江村利雄

本学の公開教育講座は、1983年に「卒後教育講習会」として発足し、1985年に「公開教育講座」と名称を改めて、年に数回の講座が開催されてきました。その間、各年度の公開教育講座委員会において次々と新機軸が打ち出されて充実した講演が行われてまいりました。本年度の公開教育講座の企画・運営については、原則的にはそれを踏襲して実施いたします。本年度は、『高齢化社会における医療と薬学・薬剤師』をメインテーマとし、3回の講座を開催の予定です。高齢者とその病気および薬物療法についての講演をトップバッターに、介護や介護保険の問題、薬の安全性など、幅広い観点から高齢者に対する医療や薬物療法についての講演を企画しております。

す。医療現場で働いておられる方々のみならず、家庭において介護にあたっておられる方々にも参加して頂けるよう期待しています。なお、交通の便を考慮して、今年度から、会場を梅田スカイビルに移しました。

これまで通り受講された方には、大阪薬科大学から修了証をお渡しし、薬剤師の方には、(財)日本薬剤師研修センターの「研修認定薬剤師制度」による単位認定をいたします(1日2単位)。

また、(社)大阪府薬剤師会から「薬剤師生涯教育受講証」も発行いたします。その他、近畿2府4県の病院薬剤師会からの単位認定も予定しています。

□ 平成15年度市民講座 □

主に市民の方を対象として実施している恒例の市民講座を、本年度も次のとおり2回開催する予定です。講演内容は参加者の皆様のアンケート結果を参考に決め、市民の方々が参加しやすい講座になるよう努めています。

同時に、「くすりの相談室」、「薬用植物園の見学」も行います。「くすりの相談室」では第一線でご活躍中の薬剤師の方々が、くすりに関するあらゆる相談に応じております。ご近所の方などにご参加いただけるよう、お勧めください。

第15回 大阪薬科大学市民講座

日時：平成15年5月31日(土)13:00～16:00
場所：大阪薬科大学 講堂
定 員：約350名(申込不要/先着順)
受講料：無料
演題／講師：「生きがいを見つけ病に打ち克つ」
すばるクリニック院長 伊丹仁朗
「老化と眼」
大阪医科大学眼科学教授 松村美代

第16回 大阪薬科大学市民講座

日時：平成15年10月25日(土)13:00～16:00
場所：大阪薬科大学 講堂
定 員：約350名(申込不要/先着順)
受講料：無料
演題／講師：「生薬・漢方薬」(予定)
大阪薬科大学非常勤講師
近畿大学薬学部薬用資源学教授
近畿大学東洋医学研究所所長 久保道徳
「泌尿器疾患」(予定)
大阪市立大学名誉教授 岸本武利

平成15年度学校法人予算

事務局長 肥塚 敏彰

学校法人大阪薬科大学の平成15年度予算については、理事会の予算編成方針に基づき、予算委員会の審議を経て編成を行ったが、去る平成15年3月11日(火)に開催された理事会および評議員会において承認されたので、資金収支予算書(総括表)を掲載し、その概要を説明したい。

(総括)

平成15年度の収入予算総額(収入の部合計一前年度繰越支払資金)は33億5,780万円、支出予算総額(支出の部合計一次年度繰越支払資金)は32億2,550万円であり、差引き1億3,230万円の収入超過となる。

(収入の部)

(学生生徒等納付金収入)

授業料15億400万円、入学金1億6,200万円、施設・設備費7億2,000万円他を計上した。

(手数料収入)

入学検定料1億3,000万円他を計上した。

(補助金収入)

私立大学経常費補助金2億6,700万円、研究設備・施設整備費補助金2,500万円他を計上した。

(事業収入)

附属薬局の収入予算3億9,000万円他を計上した。

(支出の部)

(人件費支出)

教員人件費は教員充実予算3,000万円を含め9億1,100万円、職員人件費は附属薬局分を含め4億2,250万円を計上した。

(管理経費支出)

附属薬局の物件費3億5,100万円他を計上した。

(施設関係支出)

防犯カメラによる学内管理システム工事費770万円、正門、本部・図書館棟の歩道等交通整備工事費450万円他を計上した。

(設備関係支出)

教育研究用機器1億4,400万円、図書4,900万円他を計上した。

資金収支予算書(総括表)

平成15年4月1日から平成16年3月31日まで

科 目	収入の部 (単位 千円)		
	本年度予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金収入	2,394,000	2,389,000	5,000
手数料収入	141,000	136,200	4,800
寄付金収入	16,000	10,000	6,000
補助金収入	294,800	301,800	△ 7,000
資産運用収入	10,000	10,000	0
事業収入	399,600	357,500	42,100
雑収入	41,100	45,000	△ 3,900
前受金収入	437,200	444,000	△ 6,800
その他の収入	171,900	143,200	28,700
資金収入調整勘定	△ 547,800	△ 592,600	44,800
前年度繰越支払資金	2,323,000	1,143,000	1,180,000
収入の部 合計	5,680,800	4,387,100	1,293,700

科 目	支出の部 (単位 千円)		
	本年度予算額	前年度予算額	増 減
人件費支出	1,396,500	1,319,000	77,500
教育研究経費支出	603,700	549,800	53,900
管理経費支出	447,800	408,500	39,300
借入金等利息支出	167,500	184,900	△ 17,400
借入金等返済支出	344,500	358,500	△ 14,000
施設関係支出	15,900	20,000	△ 4,100
設備関係支出	195,600	258,400	△ 62,800
資産運用支出	15,000	18,000	△ 3,000
その他の支出	165,500	138,400	27,100
(予備費)	10,000	10,000	0
資金支出調整勘定	△ 136,500	△ 124,200	△ 12,300
次年度繰越支払資金	2,455,300	1,245,800	1,209,500
支出の部 合計	5,680,800	4,387,100	1,293,700

総務課だより

◇ 実験動物慰霊祭

平成14年12月11日（水）午後0時30分より講堂において、日頃実験動物を取り扱っている教職員、学生等約300名参加のもと、実験動物慰霊祭がしめやかに執り行われました。

◇ 最終講義

下記のとおり、最終講義が行われました。

草野 源次郎 教授

日時 平成15年3月20日（木）午後1時

演題 「植物から学ぶ」

場所 講義室2A

森 逸男 教授

日時 平成15年3月20日（木）午後3時

演題 「回顧」

場所 講義室2A

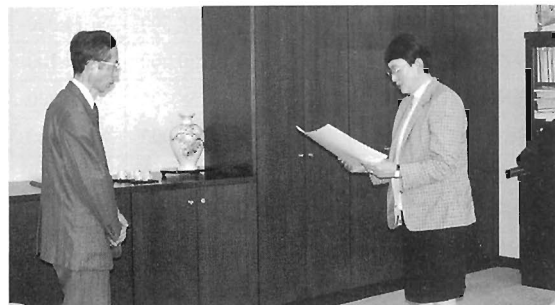
◇ 退職記念パーティー

平成15年3月20日（木）午後5時30分より大学会館において、森逸男教授、草野源次郎教授、内田就職課長の退職記念パーティーが開催されました。



◇ 名誉教授称号授与式

平成15年5月19日（月）午後0時20分より学長室において、森逸男元教授に対する大阪薬科大学名誉教授称号授与式が挙行されました。



◇ 卒業式・大学院学位記授与式

平成15年3月8日（土）午前10時30分より体育館において、平成14年度大阪薬科大学薬学部卒業式並びに大学院学位記授与式（学部284名、大学院博士前期（修士）課程42名、大学院博士後期課程1名）が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。

なお、本年度より、同窓会賞が制定され、学部卒業生のうち、成績最優秀者、薬学科（喜多岡春香）、製薬学科（岸田佳子）各1名に対し、大阪薬科大学同窓会から表彰状と副賞が贈呈されました。



◇ 入学式

平成15年4月7日（月）午前10時30分より体育館において、平成15年度大阪薬科大学薬学部並びに大学院入学式（学部287名、大学院博士前期（修士）課程59名、大学院博士後期課程4名）が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。



◇ 海外出張

玄番 宗一 教授(薬理学教室)

<出張期間：平成15年6月6日～6月17日>

国際腎臓学会議 Berlin 2003(ベルリン・ドイツ)

国際急性腎不全シンポジウム(アントワープ・ベルギー)

◇ 研究助成

*大阪薬科大学同窓会研究助成金

藤井 忍 (生化学教室助手)

研究題目「中性Mg²⁺依存性スフィンゴミエリナーゼの触媒機構の解明」

◇ 日本学術振興会特別研究員

日本学術振興会では、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者を育成するため、昭和60年度から優れた若手研究者に対して、特別研究員制度を実施しています。

平成15年度は、下記のとおりPDに1名が採用となりました。

米田誠治 (受入研究者：千熊教授)

研究課題：「アゾール架橋白金二核錯体の物理化学的性質及び生体高分子との相互作用に関する研究」

採用期間：平成15年4月1日～平成18年3月31日

◇ 受賞

*日本薬学会近畿支部有機合成若手セミナー優秀研究発表賞(平成15年12月10日受賞)

市川隼人(有機分子機能化学研究室助手)

研究題目「アルミニウム触媒の設計を基盤とする実用的Meerwein-Ponndorf-Verley(MPV)還元およびOppenauer(OPP)酸化反応の開発」

*第76回日本薬理学会年会口演優秀発表賞(平成15年3月31日受賞)

岡田有加(本学大学院修士課程修了・第27期生)

研究題目「5/6腎摘慢性腎不全モデルラットにおけるエンドセリンET_B受容体の役割」

◇ 大阪薬科大学同窓会よりの寄付(寄贈)

平成15年3月31日付で大阪薬科大学同窓会より、講義室用掛時計28台、講義用書画カメラ2台の購入代金として、金771,330円の寄付(寄贈)がありました。

◇ 故 中室嘉祐元教授ご遺族よりの寄付

平成15年6月6日付で故 中室嘉祐元教授のご遺族より図書購入代金として、金50,000円の寄付がありました。

平成15年度 科学研究費補助金採択状況

	職名	氏名	研究種目	研究課題	配分額(千円)
継続	助教授	大桃 善朗	基盤研究(C)	脳神経疾患におけるシグマレセプター機能解析のためのインビボ核医学診断剤の開発	600
	教授	千熊 正彦	基盤研究(C)	シスプラチン耐性がんの有効な新規複核白金錯体と核酸との相互作用に関する研究	600
	教授	石田 寿昌	基盤研究(C)	タウ蛋白質の立体構造解析に基づくタンゲル形成機構の解明	500
	教授	松村 靖夫	基盤研究(C)	腎虚血再灌流障害の分子機構	700
	助手	尹 康子	基盤研究(C)	生理活性ペプチドの、C-末端アミド化が及ぼす構造化学的影響の解明	1,500
	助手	平田 雅彦	若手研究(B)	癌の早期診断と治療を目指したVEGFRチロシンキナーゼ活性診断用放射性薬剤の開発	700
	助手	和田 俊一	若手研究(B)	遺伝子治療を目指した膜透過・チャンネル形成ペプチドのベクターとしての可能性	1,000
新規	助手	藤井 忍	若手研究(B)	中性Mg ²⁺ 依存性スフィンゴミエリナーゼの構造と機能	1,100
	助手	宮本 勝城	基盤研究(C)	海洋細菌が菌体外に分泌する各種プロテアーゼの生理的役割	2,900
	講師	大石 宏文	基盤研究(C)	ポリアミンと左巻きDNAの相互作用に関する構造科学的研究	1,300
	教授	天野富美夫	基盤研究(C)	新規病原性関連遺伝子産物SEp22がサルモネラの環境における生存性に及ぼす影響	2,300
	特別研究員	米田 誠治	特別研究員奨励費	アゾール架橋白金二核錯体の物理化学的性質及び生体高分子との相互作用に関する研究	1,100
合計		12名			14,300

図書課だより

■大阪薬科大学ハイテク・リサーチセンター 平成14年度シンポジウム

平成14年12月7日（土）午後1時より、本学において、大阪薬科大学ハイテク・リサーチセンター平成14年度第1回公開シンポジウムが下記のプログラムにて開催されました。途中、ポスターセッションもあり、盛況裡のうちに終了しました。

1. 演題「DNAのキラリティーと分子認識」
演者 大阪薬科大学機能分子創製化学研究室
講師 浦田 秀仁
2. 演題「人工分子によるDNA配列の特異的認識と反応」
演者 九州大学大学院
教授 佐々木 茂貴
3. 演題「RNA医薬品によるAIDS治療」
演者 千葉工業大学
教授 高久 洋
4. 演題「蛋白質生合成開始因子4EのmRNA
キャップ認識機構」
演者 大阪薬科大学薬品物理化学教室
教授 石田 寿昌
5. 演題「損傷DNAの認識と細胞の応答」
演者 大阪大学大学院
教授 花岡 文雄



◇ 閲覧用の座席を増設

図書館内に、これまで以上に図書の閲覧用座席を増やしてほしいという声に応え、わずかなスペースも活用し、閲覧座席を年次計画で増設しています。この計画は、平成14年度から始め、3年程度かけ、順次増設していく予定です。しかしながら、この計画を終えた時点でも、定期試験直前あるいは薬剤師国家試験に向けた学習などで利用者が大幅に増加する時期には、収容が不可能なこともあります。そのような場合は、グループ学習室も活用してください。

◇ 新着図書の情報

新着図書の情報は、1カ月分を取りまとめ、毎月、大阪薬科大学図書館のホームページで公開しています。ただ、このページは、学内LANからしか閲覧することができませんので、キャンパス内のLANに繋がっている端末を用いて、大阪薬科大学ホームページ→学内掲示板→大阪薬科大学図書館→新着図書の順に進んで、確認してください。

経理課だより

◇ 平成16年度の学費（学部）について

平成16年度の学費（学部）が次のとおり決定しましたのでお知らせします（本年度と同額）。

（単位 円）

内 訳	金 額
授 業 料（年額）	1,200,000
施設・設備費（年額）	600,000
計	1,800,000

* 2年次以降、実習費を徴収する場合があります。

施設課だより

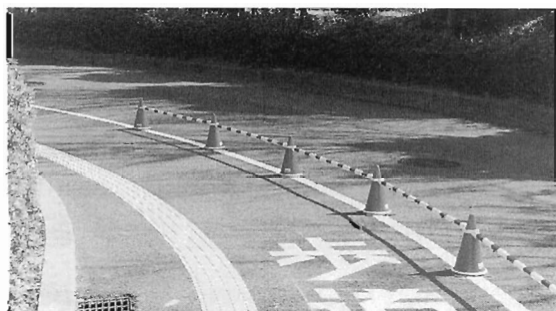
◇ 学内交通整備

正門から本部・図書館棟に至る道路等の交通整備について、歩行者の安全確保および車両等の事故予防の観点から、関連委員会において対策を検討し、次の工事を2～4月に行いました。

- (1) 歩道・車道の分離線を道路の西寄りから東寄りに変更して、歩行者の車道横断を無くしました。
- (2) 本部・図書館棟玄関前の樹木を他へ移植して急カーブ道路の見通しを良くしました。



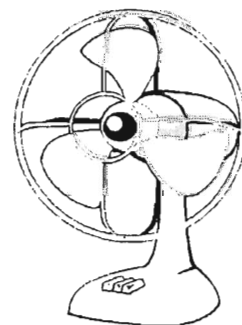
正門前の歩道



守衛室前の歩道



本部・図書館棟玄関前急カーブ道路の見通し



入試・広報課だより

■ 平成15年度入試結果

試験種別	AO入試 (A方式)			推薦入試 (S方式)			センター試験利用入試 (C方式)			一般入試 I (F方式)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
募集人員	10名			50名			20名			80名		
志願者	第一次選考 23	第一次選考 58	第一次選考 81	116	295	411	411	743	1,154	374	733	1,107
	第二次選考 23	第二次選考 58	第二次選考 81									
受験者	3	9	12	13	58	71	77	121	198	87	181	268
合格者	3	9	12	9	37	46	5	11	16	25	59	84
入学者												

※AO入試第一次選考は書類審査のみ

■ 平成16年度入試概要

試験種別	AO入試 (A方式)	推薦入試 (S方式)	センター試験利用入試 (C方式)	一般入試 I (F方式)
募集人員	10名	50名	20名	80名
出願開始日	平成15年8月25日(月)	平成15年10月30日(木)	平成16年1月8日(木)	平成16年1月8日(木)
出願締切日	平成15年9月12日(金)消印有効	平成15年11月5日(水)消印有効 平成15年11月6日(木)のみ持参可	平成16年1月16日(金)消印有効	平成16年1月26日(月)消印有効 平成16年1月27日(火)のみ持参可
入学試験日	※第二次選考 平成15年10月11日(土) ※第三次選考 平成15年10月25日(土)	平成15年11月8日(土)	平成16年1月17日(土) 平成16年1月18日(日)	平成16年2月1日(日)
合格発表日	平成15年10月31日(金)	平成15年11月22日(土)	平成16年2月7日(土)	平成16年2月7日(土)
入学手続 締切日	平成15年11月21日(金) (一括方式)	1次 平成15年12月2日(火) 2次 平成15年12月25日(木) (2段階方式)	1次 平成16年2月23日(月) 2次 平成16年3月23日(火) (2段階方式)	1次 平成16年2月23日(月) 2次 平成16年3月23日(火) (2段階方式)
試験場	本学	本学		本学・大阪国際会議場・ 中国新聞ホール(広島)・高松商工会議所(香川)
試験内容	※第一次選考(書類審査) 自己アピール書 課題レポート 各種証明書 推薦書 調査書 第一次選考結果発表 平成15年9月26日(金) ※第二次選考 [基礎学力確認(理科)] 60分 化学I B, 生物I Bから 1科目選択 [小論文] 75分 課題レポートの理解度を確認する 第二次選考結果発表 平成15年10月17日(金) ※第三次選考 面接	[調査書] 150点 (理科, 外国語の評定平均値 各25点, 数学, 全体の評定平均値 各50点) 学力確認 [理科] 75分 150点 化学I B, 生物I B から1科目選択 [外国語] 60分 100点 英語 [小論文] 60分 100点	センター試験利用科目 [理科] 化学I B, 生物I B, 物理I Bのうち最高 得点科目を採用 100点×2 200点 [外国語] 英語 200点 [数学] 数学I・数学A 100点 数学II・数学B 100点 [国語] 国語I, 国語I・国語II から1科目選択 100点 (『近代以降の文章』の範囲に限定) 本学の個別学力検査等は実施しない	[理科] 90分 100点 化学(化学I B, 化学II) 生物(生物I B, 生物II) から1科目選択 [外国語] 75分 75点 英語I 英語II リーディング ライティング [数学] 75分 75点 数学I 数学II 数学A(数と式, 数列) 数学B(ベクトル, 関数と数値計算) [調査書] 150点 (理科, 外国語, 数学の評定平均値各25点, 全体の評定平均値 75点)
判定	提出書類, 基礎学力確認, 小論文 及び面接を総合して判定する	学力確認等及び提出書類を総合 して判定する	センター試験の成績及び提出 書類を総合して判定する	学力試験等及び提出書類を総合 して判定する

■ オープンキャンパス ■

大阪薬科大学オープンキャンパス2003
 日 時：平成15年 8月1日(金)，22日(金)
 13：00～17：00

内 容：平成16年度入試概要説明，模擬実験，
 学内見学，個別相談ほか

試験種別	一般入試Ⅱ (G方式)			帰国生徒特別選抜入試 <K方式>			合計			編入試 (H方式)		
	募集人員	80名		若干名			240名			若干名		
志願者	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
		782	1,136	1,918	0	2	2	1,706	2,967	4,673	3	10
受験者	700	994	1,694	0	2	2	1,620	2,809	4,429	3	8	11
合格者	119	166	285	0	2	2	299	537	836	2	4	6
入学者	48	81	129	0	0	0	90	197	287	2	4	6

試験種別	一般入試Ⅱ (G方式)	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)	編入試 (H方式)
募集人員	80名	若干名	若干名
出願開始日	平成16年1月8日(木)	平成15年10月23日(木)	平成15年8月19日(火)
出願締切日	平成16年2月3日(火) 消印有効 平成16年2月4日(水) のみ持参可	平成15年10月30日(木) 消印有効	平成15年8月29日(金) 消印有効
入学試験日	平成16年2月9日(月)	平成15年11月8日(土)	平成15年9月6日(土)
合格発表日	平成16年2月17日(火)	平成15年11月22日(土)	平成15年9月10日(水)
入学手続 締切日	1次 平成16年2月23日(月) 2次 平成16年3月23日(火) (2段階方式)	1次 平成15年12月2日(火) 2次 平成15年12月25日(木) (2段階方式)	1次 平成15年9月18日(木) 2次 平成15年12月25日(木) (2段階方式)
試験場	本学・大阪予備校	本学	本学
試験内容	[理 科] 90分 100点 化学(化学ⅠB, 化学Ⅱ) 生物(生物ⅠB, 生物Ⅱ) から1科目選択 [外国語] 90分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数 学] 90分 100点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A(数と式, 数列) 数学B(ベクトル, 複素数 と複素数平面)	学力確認 [理 科] 75分 150点 化学ⅠB, 生物ⅠB から1科目選択 [外国語] 60分 100点 英語 [小論文] 60分 100点 面接	基礎教育分野に関する試験 [英語] 45分 50点 [数学] 45分 50点 基礎薬学分野に関する試験 [化学] 60分 100点 [生物] 60分 100点 [物理] 60分 100点 面接
判定	学力試験及び提出書類を総合して判定する	学力確認, 面接及び提出書類を総合して判定する	学力試験, 面接及び提出書類を総合して判定する

学生課だより

◆ 健康管理について

平成15年度学生定期健康診断受診状況（4/9, 10, 11 実施） 全項目受診者数

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	計
男	89	19	52	83	27	26	3	—	0	299
	90	111	101	98	28	26	3		1	458
女	197	48	121	177	30	7	1	—	—	581
	200	221	190	201	32	8	1		—	853
計	286	67	173	260	57	33	4	—	0	880
	290	332	291	299	60	34	4		1	1,311
受診率	98.6% <98.4>	20.2% <26.1>	59.5% <63.3>	87.0% <84.8>	95.0% <97.2>	97.1% <93.0>	100% <->	— <->	0% <50.0>	67.1% <70.7>

< > 内は平成14年度

平成15年度胸部X線検査受診状況（4/9, 10, 11 実施）

全項目受診者数

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	総計	職員
男	89	25	56	84	27	26	3	—	0	310	50
	90	111	101	98	28	26	3		1	458	77
女	197	57	143	192	30	7	1	—	—	627	19
	200	221	190	201	32	8	1		—	853	36
計	286	82	199	276	57	33	4	—	0	937	69
	290	332	291	299	60	34	4		1	1,311	113
受診率	98.6% <98.4>	24.7% <38.7>	68.4% <78.6>	92.3% <89.9>	95.0% <97.2>	97.1% <93.0>	100% <->	— <->	0% <50.0>	71.5% <78.4>	61.1% <58.3>

< > 内は平成14年度

平成14年度保健室利用状況（H14.4.1～H15.3.31）

月	利用者別		利用内容別					計
	学生	職員	外科系	内科系	健康指導・相談	休養	転送	
4	220	7	17	27	176	6	1	227
5	342	10	22	47	263	20	0	352
6	578	12	39	41	490	20	0	590
7	297	6	15	32	241	15	0	303
8	68	5	4	11	58	0	0	73
9	168	13	24	34	108	14	1	181
10	199	13	32	68	96	16	0	212
11	143	10	25	52	65	11	0	153
12	101	8	11	30	55	13	0	109
1	77	13	7	26	46	11	0	90
2	67	13	4	31	32	13	0	80
3	19	15	5	12	16	1	0	34
計	2,279 <2,085>	125 <138>	205 <232>	411 <506>	1,646 <1,337>	140 <146>	2 <2>	2,404 <2,223>

< > 内は平成13年度

「外科系」はガーゼ交換，湿布交換を含む。

「健康指導・相談」は健康診断受診証明の発行，検尿，血圧測定，身長・体重測定等を含む。

◇ 新入生交流・導入教育について

新入生交流・導入教育として、一昨年は体育館で教員の紹介と軽食を実施し、昨年は小規模なアドバイザー単位の企画で実施されました。本年度で4回目となりましたが、今回も昨年同様、小規模なアドバイザー単位の企画が実施されました。多くの新入生が参加し食事会、ハイキング、野球観戦など多彩な企画内容でした。

◇ 学生相談室について

平成15年4月から板倉佐恵子相談員に替わり、児玉陽子相談員と岡鈴佳相談員が皆さんの来室を待っています。板倉相談員は、学生相談室発足時(平成11年12月)から箱庭を含め、備品の整備やティーアワー等の企画を実施していただきました。

本学に二人の相談員を迎えるのは初めてのことで、悩みを話せる人が増えることにより柔軟な対応ができることを期待しています。心理テストも受けることができますので気軽に学生相談室を訪れてください。

利用については、学生相談室前、学生課窓口のリーフレットを参考にしてください。

木曜日は 岡鈴佳相談員(臨床心理士)、金曜日は 児玉陽子相談員(臨床心理士)が、12:00から15:00まであなたを待っています。tel:(072)690-1077(直通)
mail:counsel@gly.oups.ac.jp

◇ 平成15年度 学友会執行委員会

執行委員長	玉川博一(バレーボール部)
副執行委員長	本田隆幸(剣道部)
総務局長	神原幸子(バスケットボール部)
厚生局長	澤田尚孝(硬式庭球部)
広報渉外局長	田部三沙(ハンドボール部)
体育局長	増田健二(バドミントン部)
文化局長	小林佑子(コーラス部)

◇ 平成15年度 大薬祭実行委員会

実行委員長	杉本貴洋(弓道部)
副実行委員長	宮崎 愛(バレーボール部)
総務部長	神原幸子(バスケットボール部)
イベント部長	前 遼(サッカー部)
リサイクル部長	池尻勇樹(有志)
装飾部長	大田健二(硬式庭球部)
渉外部長	安田奈央(柔道部)
渉内部長	浅場幸子(柔道部)



教務課だより

◇ 学位授与

[博士]

博第14号 博七(薬学) 塚本 大介
「数種の植物由来ポリヒドロキシアルカロイド
に関する研究」
(平成15年3月8日付)

論博第35号 博士(薬学) 山元 淳
「システインプロテアーゼ・阻害剤複合体の構造化
学的研究とそれに基づく新規阻害剤の分子設計」
(平成15年3月20日付)

論博第36号 博士(薬学) 宮本 勝城
「海洋細菌Pseudoalteromonas piscicida O-7株の産
生するプロテアーゼに関する研究」
(平成15年3月20日付)

[修士]

修士(薬学) 男29名 女13名 合計42名
(平成15年3月8日付)

[学士]

学士(薬学) 薬学科0名 製薬学科2名
男2名 女0名 合計2名
(平成14年12月31日付)

学士(薬学) 薬学科158名 製薬学科126名
男90名 女194名 合計284名
(平成15年3月8日付)

平成15年度 前期行事予定 (大 学 院)

4.7 (月) 入学式
4.11 (金) 前期特論開始
4.18 (金) 前期特論選択科目履修届提出締切
午後3時(教務課)
5.9 (金) 創立記念日(休業)
6.9 (月) 平成16年度修士課程推薦入学試験出願受付
6.20 (金) 平成16年度修士課程推薦入学試験
7.7 (月) 平成16年度修士課程推薦入学試験合格者発表
7.22 (火) 前期特論終了
7.22 (火) 平成16年度修士課程一般入学試験出願受付
8.1 (金) 平成16年度修士課程一般入学試験
8.20 (水) 平成16年度修士課程一般入学試験
8.29 (金) 平成16年度修士課程一般入学試験合格者発表

平成15年度 前期行事予定 (学 部)

4.7 (月) 入学式(学部・大学院)
4.8 (火) 新入生ガイダンス・アドバイザー面談
4.9 (水) 校医講演・新入生健康診断
4.10 (木) 前期授業開始
健康診断(新入生以外の学生・職員的女子)
4.11 (金) 健康診断(新入生以外の学生・職員男子)
4.16 (水) 前期選択科目履修届提出締切(1~3年次生)
午後3時(教務課)
4.23 (水) 第88回薬剤師国家試験合格者発表(厚生労働省)
5.2 (金) 薬学総合演習オリエンテーション(4年次生)
5.8 (木) 新入生歓迎会(五月祭)〔午後臨時休講〕
5.9 (金) 創立記念日(休業)
6.7 (土) 学友会球技大会
6.10 (火) 前期授業終了(4年次生)
6.19 (木) 前期定期試験(4年次生)
6.24 (火) 前期定期試験(4年次生)欠席届提出締切
午後1時(教務課)
6.27 (金) 第1回薬学総合演習総合試験(4年次生)
6.28 (土) 平成16年度大学院修士課程推薦入学試験
6.30 (月) 平成16年度大学院修士課程推薦入学試験合格者
発表
7.7 (月) 前期授業終了(1~3年次生)
7.15 (火) 前期授業予備日
7.16 (水) 前期定期試験(1~3年次生)
7.17 (木) 前期定期試験(1~3年次生)
7.31 (木) 前期定期試験(1~3年次生)欠席届提出締切
午後1時(教務課)
8.1 (金) 平成16年度大学院修士課程一般入学試験
8.20 (水) 前期再試験受験者発表(4年次生)
8.26 (火) 前期再試験受験者発表(1~3年次生)
8.28 (木) 平成16年度大学院修士課程一般入学試験合格者発表
8.29 (金) 前期再試験(4年次生・1~4年次全科目)9月6日(土)を含む
9.1 (月) 前期再試験(1~3年次生)9月6日(土)を含む
9.12 (金) 前期再試験(1~3年次生)9月6日(土)を含む
9.3 (水) 平成16年度編入学試験(H方式)
9.12 (金) 平成16年度編入学試験(H方式)合格者発表
9.6 (土) 第2回薬学総合演習総合試験(4年次生)
9.10 (水) 後期授業開始(1~3年次生)
9.19 (金) 特別再試験受験者発表(4年次生)
9.20 (土) 就職ガイダンス(3年次生)
9.22 (月)
9.25 (木)
9.26 (金)

就職課だより

〔就職情報システムについて〕

極めて厳しい就職活動状況にありながら、本学卒業生の進路・就職状況はここ数年、好調に推移しています。これは、医薬分業の進展が薬剤師需要を生み、また製薬企業間の競争激化が求人増加につながっているためと考えられます。

製薬企業や一部の保険薬局、ドラッグストア等の本年度の採用活動は、2月中旬頃から活発化し、年々早期化しているのが現状です。就職課として激変する業界の流れを迅速かつ確にキャッチし、就職希望者にスピーディーに情報開示するために、本年度より就職資料室に専用パソコン2台とプリンター1台を設置しました。

現在、製薬企業・保険薬局・病院等々は各自のホームページを充実させており、学生もそれらの情報をもとに「企業選択」や「採用活動」に活用しています。学生の就職活動のきめ細かなサポートとして、インターネットでの情報収集やホームページからのエントリーをタイムリーに行う環境を整えています。同時に過去の就職データを製薬関連企業、病院・診療所、研究生、薬局、公務員、大学院・研究生等領域別に整理し、順次開示しています。今後、就職課Webシステムを構築し、就職情報公開の質・量を充実していく予定です。

〔インターンシップ*について〕

インターンシップは、関係省庁の推進施策により年々拡大しています。本学では、46号学報でお知らせしましたように平成14年度よりスタートさせ、本年度以降も更に拡大する予定です。

〔大学等における平成13年度インターンシップ実施状況調査結果〕（平成14年11月11日文科科学省高等教育局専門教育課発表資料より抜粋）によりますと、全国の国公私立の大学・短期大学・高等専門学校で単位認定を行う授業科目として実施されているインターンシップの実施状況の概要は、以下の通りです。

平成13年度実施状況は、大学で281校(41.9%)・(8.4ポイント増)、平成14年度以降の実施予定は大学で370校(55.2%)。また、実施学年では最も多かったのは大学では第3学年(67.7%)、大学院では博士前期(修士)課程1年(71.2%)で、実施時期・期間

としては夏期休業中に1週間から2週間未満でした。

本学でも「学生が企業マインドを直接体験することで、自己を正しく認識し、仕事に取り組む態度を磨き、就職活動を真摯に行う心構えをつくり上げることを目的として実施しました。平成14年度は夏休みを利用して3日間、学内選考を経た7名の3年次生が大阪に本社のある大手製薬企業で実習・研修的な就職体験を行って頂きました。本学のインターンシップは授業科目ではありませんが、学校行事における教育活動(学校施設以外)の一環として位置付けて実施していきます。昨年度は初めての試みでしたが、参加学生のみならず3年次生全員に大きなインパクトを与えたことが体験報告書、その後のパネルディスカッション等でも検証されています。本年度も企業数・参加学生数を増やし、8月の夏休みを実施する予定です。

〔平成14年度インターンシップ実施例：A社〕

- [1日目] ・ A社の企業理念等会社概況の説明
- ・ MRについての解説及び本社機構の説明と見学(人事部等管理部門他)
- ・ 医薬情報提供及びPMS(市販後調査)についての解説、業務についての説明と見学
- ・ 中央研究所の見学(タンパク質の構造解析・微生物研究室等)
- [2日目] ・ MR同行(病院・開業医・保険薬局等・形態別に訪問)
- [3日目] ・ 工場、物流センターの見学
本社にて質疑応答、グループディスカッション

*インターンシップとは

「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」です
(平成9年1月24日 文部省：教育改革プログラムより)。

□ 人 事 □

嘱託 (平成15年4月1日付 期間1年)

沼田 敦 (教授)
稲森 善彦 (教授)

非常勤嘱託 (平成15年4月1日付 期間1年)

柚木 孝士 (校医)
岡 鈴佳 (学生相談室相談員)
児玉 陽子 (学生相談室相談員)

併任 (平成15年1月1日付)

共同研究センター長
千熊 正彦 (教授) 任期1年
(平成15年2月1日付)
薬用植物園長
馬場きみ江 (教授) 任期2年
総合薬学系機能分子科学部門長
沼田 敦 (教授) 任期1年
総合薬学系分子薬科学部門長
木村捷二郎 (教授) 任期1年
総合薬学系生命薬科学部門長
松村 瑛子 (教授) 任期1年
(平成15年3月13日付)
総合薬学系臨床薬学教育研究群長
田中 一彦 (教授) 任期1年
(平成15年4月1日付)
教務部長 千熊 正彦 (教授) 任期2年
学生部長 加藤 義春 (教授) 任期2年

昇任 (平成15年1月1日付)

係長 三角 智津 (総務課主任)
係長 讃木真理子 (教務課主任)
主任 小谷川洋子 (入試・広報課員)
(平成15年2月1日付)
助教授 安田 正秀 (講師)
講師 谷口 雅彦 (助手)
(平成15年4月1日付)
図書課長兼資料室長 福永 治久
(入試・広報課課長補佐)
課長 渡辺 威郎 (就職課課長補佐)
課長補佐 吉田 弘子 (就職課係長)
課長補佐 澤田あつ子 (図書課係長)
課長補佐 高橋 嘉明 (総務課係長)

課長補佐 手島 尚 (経理課係長)
主任 山之内右 (教務課員)
主任 崎山 祐子 (経理課員)

採用 (平成15年1月16日付)

事務職員 渡辺 威郎 (就職課課長補佐)
(出向)
(平成15年4月1日付)
事務職員 小牧 優 (学生課)
事務職員 中尾由起子 (総務課)

配置変え (平成15年4月1日付)

増家 博 (入試・広報課係長/学生課係長より)
齋藤 貴博 (学生課主任/教務課主任より)
石川 雅人 (教務課/学生課より)

招へい教授 (平成15年4月1日付 期間1年)

濱 六郎 (客員研究員)
中川 照眞 (客員研究員)

非常勤講師 (平成15年4月1日付)

秋岡 壽 (臨床医学概論)
今泉 昌利 (臨床医学概論)
井原美保子 (看護学総論)
太田 光熙 (臨床生化学)
笠原 伸元 (医療総合講座)
片山 善章 (臨床検査総論)
北村 瑞穂 (人文科学特論1)
木村 文治 (臨床医学概論)
草野源次郎 (生薬学2, 天然医薬品学)
小坂 美樹 (フランス語1)
小松 敏彦 (体育実技)
斎藤 武 (数学1, 物理学2)
田口 侑男 (数学1, 物理学2)
中村 益久 (臨床薬理学2, 毒性学)
中村 恵 (基礎ゼミ, ドイツ語1, ドイツ語3, 洋書講読ゼミ1)
中山 悌一 (体育実技)
樋口 久 (英語1, 英語1 (演習))
藤田 義孝 (洋書講読ゼミ1)
古川 恵三 (臨床医学概論)
榊矢 桂一 (基礎ゼミ, ドイツ語1, 洋書講読ゼミ1)
山元 弘 (免疫学)

和田 武夫 (生物統計学)
渡辺 幹典 (社会科学特論1)
Joseph Michael Jacobs (英語3)
Julianne Gay Whitlam (英語3)
Anthony FW Foong (洋書講読ゼミ1)

大学院非常勤講師 (平成15年4月1日付)
上野 和行 (臨床薬理学Ⅱ, 臨床医学Ⅲ)
桂 敏也 (臨床薬物動態学Ⅱ)
河北誠三郎 (病態生理学Ⅱ)
濱 六郎 (薬剤疫学)
林 敬次 (臨床医学Ⅰ)
平田 純生 (臨床薬理学Ⅰ, 薬物治療学Ⅱ)
藤田 譲 (臨床心理学)
三浦 克之 (医療薬学Ⅱ (薬理学), 薬効安全性学)
光木 徹 (臨床医学Ⅱ)

非常勤助手 (平成15年4月1日付)
宮田 真希 (体育実技)

客員研究員 (平成15年4月1日付 期間1年)
濱 六郎
中村 益久
寺野 由剛
中川 照眞

外国人客員研究員 (平成15年4月1日付 期間1年)
王 年鶴

定年退職 (平成15年3月31日付)
稲森 善彦 (教授)
内田 勝彦 (就職課長) (任期終了)

退職 (平成15年3月31日付)
中山 基宏 (図書課長)

解 嘱 (平成15年3月31日付)
森 逸男 (教授)
草野源次郎 (教授)
板倉佐恵子 (学生相談室相談員)

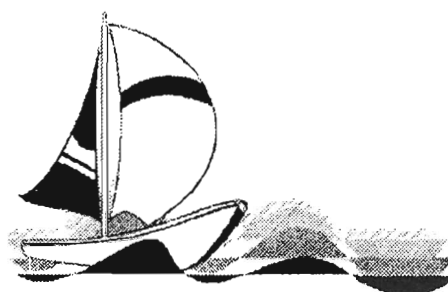
退 任 (平成15年3月31日付)
石田 寿昌・教務部長 (任期満了)
土井 勝・学生部長 (任期満了)

名誉教授 (平成15年4月1日付)
森 逸男

□ 慶 弔 □

【叙 勳】
吉田 嶺吉 名誉教授 平成15年4月29日
勲四等旭日小綬章

【訃 報】
浅野 忠行 元事務局長 平成15年2月21日逝去
山田 安邦 元理事 平成15年3月31日逝去
中室 嘉祐 元教授 平成15年5月14日逝去



平成15年度

各部・委員会・委員一覧

◎各部署の長

○副委員長

(平成15年4月21日現在)

教務部

松村 靖夫(教授)
楠瀬 健昭(助教授)
西野 隆雄(講師)

◎千熊 正彦(教授)
土井 光暢(助教授)
井上 晴嗣(助教授)
浦田 秀仁(講師)

学生部

松村 瑛子(教授)
大桃 善朗(助教授)
当麻 成人(講師)

◎加藤 義春(教授)
松島 哲久(助教授)
田中 麗子(助教授)
高岡 昌徳(講師)

就職部

天野富美夫(教授)
西野 隆雄(講師)

◎田中 一彦(教授)
馬場きみ江(教授)

図書館

藤田 芳一(助教授)
土井 光暢(助教授)

◎栗原 拓史(教授)
辻坊 裕(助教授)
楠瀬 健昭(助教授)

研究委員会

○田中 一彦(教授)
池田 潔(教授)
石田 寿昌(教授)
木村捷二郎(教授)
辻坊 裕(助教授)

◎天野富美夫(教授)
栗原 拓史(教授)
玄番 宗一(教授)
千熊 正彦(教授)
有本 正生(助教授)
安田 正秀(助教授)

広報委員会

栗原 拓史(教授)
千熊 正彦(教授)
田中 一彦(教授)
馬場きみ江(教授)
大石 宏文(講師)
藤田 純生(学生課長)
福永 治久(図書課長)
増家 博(入試・広報課長)

◎玄番 宗一(教授)
土井 勝(教授)
掛見 正郎(教授)
加藤 義春(教授)
松村 瑛子(教授)
秋月 延夫(総務課長)
古本 浩三(教務課長)
渡辺 威郎(就職課長)

公開教育講座委員会

稲森 善彦(教授)
三野 芳紀(助教授)
井上 晴嗣(助教授)

◎松村 瑛子(教授)
田中 一彦(教授)
松島 哲久(助教授)

市民講座委員会

掛見 正郎(教授)
松村 靖夫(教授)
松島 哲久(助教授)
西野 隆雄(講師)

◎馬場きみ江(教授)
天野富美夫(教授)
藤田 芳一(助教授)
大桃 善朗(助教授)

薬剤師国家試験対策委員会

田中 一彦(教授)
松村 瑛子(教授)
藤田 芳一(助教授)
大桃 善朗(助教授)
西野 隆雄(講師)
高岡 昌徳(講師)

◎掛見 正郎(教授)
馬場きみ江(教授)
松村 靖夫(教授)
藤本 陽子(助教授)
井上 晴嗣(助教授)
廣谷 芳彦(講師)
浦田 秀仁(講師)

医療薬学実習委員会

千熊 正彦(教授)
赤木 昌夫(助教授)
三野 芳紀(助教授)
廣谷 芳彦(講師)

◎田中 一彦(教授)
掛見 正郎(教授)
中元 安雄(助教授)
西野 隆雄(講師)

大学院小委員会

玄番 宗一(教授)
掛見 正郎(教授)

◎松村 靖夫(教授)
石田 寿昌(教授)

カリキュラム委員会

池田 潔(教授)
田中 一彦(教授)
馬場きみ江(教授)
松村 靖夫(教授)
浦田 秀仁(講師)

◎石田 寿昌(教授)
掛見 正郎(教授)
加藤 義春(教授)
木村捷二郎(教授)
藤田 芳一(助教授)

修学指導委員会

○坂田 勝治(教授)
赤木 昌夫(助教授)
濱中久美子(助教授)

◎矢内原千鶴子(学長)
馬場きみ江(教授)
藤田 芳一(助教授)
藤田 純生(学生課長)

人権委員会

土井 勝(教授)
田中 一彦(教授)
松島 哲久(助教授)

◎加藤 義春(教授)
千熊 正彦(教授)
阿部 功(助教授)
藤田 純生(学生課長)

交通整備委員会

○加藤 義春(教授)
肥塚 敏彰(事務局長)

◎矢内原千鶴子(学長)
千熊 正彦(教授)

学生相談室運営委員会
稲森 善彦(教授)
有本 正生(助教授)
井上 晴嗣(助教授)
藤田 純生(学生課長)

総務委員会

栗原 拓史(教授)
土井 勝(教授)
千熊 正彦(教授)
加藤 義春(教授)

自己評価委員会

栗原 拓史(教授)
掛見 正郎(教授)
天野富美夫(教授)
馬場きみ江(教授)
肥塚 敏彰(事務局長)

施設委員会

栗原 拓史(教授)
土井 勝(教授)
千熊 正彦(教授)

環境保全委員会

○稲森 善彦(教授)
千熊 正彦(教授)
三野 芳紀(助教授)
齊藤 陸弘(講師)
宇佐美吉英(助手)
後久 忠雄(施設課長)
藤原 昭男(施設課員)

防火対策委員会

栗原 拓史(教授)
千熊 正彦(教授)
加藤 義春(教授)
秋月 延夫(総務課長)
後久 忠雄(施設課長)
福永 治久(図書課長)

R I 施設運営委員会

玄番 宗一(教授)
石田 寿昌(教授)
木村捷二郎(教授)
藤本 陽子(助教授)
肥塚 敏彰(事務局長)

◎加藤 義春(教授)
松村 瑛子(教授)
松島 哲久(助教授)
田中 麗子(助教授)

◎矢内原千鶴子(学長)
池田 潔(教授)
石田 寿昌(教授)
田中 一彦(教授)
肥塚 敏彰(事務局長)

◎矢内原千鶴子(学長)
千熊 正彦(教授)
田中 一彦(教授)
加藤 義春(教授)
松村 靖夫(教授)

◎矢内原千鶴子(学長)
稲森 善彦(教授)
石田 寿昌(教授)
肥塚 敏彰(事務局長)

◎池田 潔(教授)
石田 寿昌(教授)
掛見 正郎(教授)
濱中久美子(助教授)
高岡 昌徳(講師)
藤井 忍(助手)
高橋 勉(技術職員)

◎矢内原千鶴子(学長)
土井 勝(教授)
天野富美夫(教授)
肥塚 敏彰(事務局長)
藤田 純生(学生課長)
古本 浩三(教務課長)

◎千熊 正彦(教授)
稲森 善彦(教授)
掛見 正郎(教授)
松村 靖夫(教授)
大桃 善朗(助教授)

組換えDNA実験安全委員会

稲森 善彦(教授)
田中 一彦(教授)
藤本 陽子(助教授)
大桃 善朗(助教授)
秋月 延夫(総務課長)

バイオセーフティ予防委員会

池田 潔(教授)
松村 瑛子(教授)

バイオセーフティ予防管理委員会

稲森 善彦(教授)
馬場きみ江(教授)
有本 正生(助教授)
井上 晴嗣(助教授)
和田 俊一(助手)

情報科学解析センター運営委員会

栗原 拓史(教授)
天野富美夫(教授)
土井 光暢(助教授)
藤田 純生(学生課長)
福永 治久(図書課長)
高橋 嘉明(総務課課長補佐)

大型共同機器整備計画委員会

土井 勝(教授)
掛見 正郎(教授)
馬場きみ江(教授)
春沢 信哉(助教授)
井上 晴嗣(助教授)

薬用植物園

沼田 敦(教授)
三野 芳紀(助教授)
西野 隆雄(講師)
芝野真喜雄(助手)
高橋 勉(技術職員)

セクシュアル・ハラスメント対策委員会

土井 勝(教授)
大桃 善朗(助教授)
河合 悦子(助手)
三角 智津(総務課係長)

◎池田 潔(教授)
石田 寿昌(教授)
松島 哲久(助教授)
辻坊 裕(助教授)
河野 公一(学外)

◎稲森 善彦(教授)
天野富美夫(教授)
安田 正秀(助教授)

◎三野 芳紀(助教授)
天野富美夫(教授)
木村捷二郎(教授)
藤田 芳一(助教授)
宇佐美吉英(助手)
後久 忠雄(施設課長)

◎大石 宏文(講師)
千熊 正彦(教授)
加藤 義春(教授)
高橋 正好(入試・広報課長)
古本 浩三(教務課長)
澤田あつ子(図書課課長補佐)

◎天野富美夫(教授)
千熊 正彦(教授)
田中 一彦(教授)
松村 瑛子(教授)
藤田 芳一(助教授)
大桃 善朗(助教授)

◎馬場きみ江(教授)
木村捷二郎(教授)
田中 麗子(助教授)
谷口 雅彦(講師)
後久 忠雄(施設課長)

◎加藤 義春(教授)
松村 瑛子(教授)
谷口 雅彦(講師)
藤田 純生(学生課長)

教員研究業績 (2002年)

(2002. 1. 1 ~12.31)

1. 研究学術論文

著 者	題 目	掲 載 誌
友尾幸司, X.Shen, 岡部高明, 野添良明, 福原章一, 森野重信, 石田寿昌, 他	Crystal structures of 7-methylguanosine 5'-triphosphate (m7GTP)-and P ¹ -7-methylguanosine-P ³ -adenosine-5', 5'-triphosphate (m7GpppA)-bound human full-length eukaryotic initiation factor 4E: biological importance of the C-terminal flexible region	<i>Biochem. J.</i> , 362 , 539(2002)
山元 淳, 友尾幸司, 真継賢一, 原 忠興, 尹 康子, 石田寿昌, 他	Structural basis for development of cathepsin B-specific noncovalent-type inhibitor: crystal structure of cathepsin B-E64c complex	<i>Biochim. Biophys. Acta</i> , 1597 , 244(2002)
尹 康子, 小野弘人, 石田寿昌	Structural studies on C-amidated amino acids and peptides: function of amide group in molecular association in crystal structures of Val-Gly-NH ₂ , Ser-Phe-NH ₂ , Gly-Tyr-NH ₂ and Pro-Tyr-NH ₂ hydrochloride salts	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 50 , 571(2002)
尹 康子, 箕浦克彦, 石田寿昌, 他	Total synthesis and conformational studies of ceratospongamide, a bioactive cyclic heptapeptide from marine origin	<i>Tetrahedron</i> , 58 , 8127(2002)
石田寿昌, 他	Synthesis of novel amino acids, L-bis-tetrahydrofuranylglycines	<i>Tetrahedron Lett.</i> , 43 , 2931(2002)
土井光暢, 弓場愛子, 浅野晶子	The <i>cis, cis</i> -proline isomer of ceratospongamide	<i>Acta Crystallogr.</i> , E58 , o62(2002)
土井光暢, 浅野晶子	<i>cis, cis</i> -Ceratospongamide monohydrate	<i>Acta Crystallogr.</i> , E58 , o834(2002)
土井光暢, 浅野晶子	Montanastatin, cyclo[-(Val-D-Hyv-D-Val-Lac) ₂]	<i>Acta Crystallogr.</i> , E58 , o935(2002)
土井光暢, 浅野晶子, 小村江里, 上江田陽子	The structure of an endomorphin analogue incorporating 1-aminocyclohexane-1-carboxylic acid for proline is similar to the B-turn of Leu-enkephalin	<i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> , 297 , 138(2002)
浅野晶子, 山田剛司, 沼田 敦, 土井光暢, 他	A flat squared conformation of an ascidiacyclamide derivative caused by chiral modification for oxazoline residue	<i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> , 297 , 143(2002)
浅野晶子, 箕浦克彦, 石田寿昌, 樽井麻里子, 土井光暢	Interaction modes between N7-quarternized guanine and cytosine-containing dipeptides	<i>Chem. Lett.</i> , 11 , 1136(2002)
浅野晶子, 箕浦克彦, 山田剛司, 沼田 敦, 石田寿昌, 土井光暢, 他	Effect of asymmetric modification on the conformation of ascidiacyclamide analogues	<i>J. Peptide Res.</i> , 60 , 11(2002)
藤田芳一, 森 逸男, 山口敬子	Spectrophotometric determination of biologically active thiols with eosin,silver(I) and adenine	<i>Anal. Sci.</i> , 18 , 981(2002)
津田 翼, 高須智子, 佐藤卓史, 齋藤睦弘, 千熊正彦	へパリン-セレノシスタミンがエールリッヒ腹水がん細胞に与える影響	<i>Biomed. Res. Trace Elements</i> , 13 , 240(2002)

著 者	題 目	掲 載 誌
米田誠治, 山中泰幸, 佐藤卓史, 千熊正彦, 他	A novel isomerization on interaction of antitumor-active azole-bridged dinuclear platinum (II) complexes with 9-ethylguanine. Platinum(II) atom migration from N2 to N3 on 1,2,3-triazole	<i>J. Am. Chem. Soc.</i> , 124 , 4738 (2002)
佐藤卓史, 原口知子, 齋藤陸弘, 千熊正彦	生物活性を有するトリペプチド(Gly-His-Lys)の銅錯体に対する抗体の作製とその性質	微量栄養素研究, 19 , 55(2002)
平田雅彦, 加川信也, 吉本光喜, 大桃善朗	Synthesis and characterization of radioiodinated MD-230254: a new ligand for potential imaging of monoamine oxidase B activity by single photon emission computed tomography	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 50 , 609(2002)
木村捷二郎, 山沖留美, 松本有加, 藤田紀子, 他	Radioactivity in crude drugs imported from Asian countries	<i>J. Health Sci.</i> , 48 , 565(2002)
木村捷二郎, 山沖留美, 川口奈美, 大谷順也	水酸化鉄(III)共沈法による上水中の放射性ヨウ素の吸着除去	RADIOISOTOPES, 51 , 149(2002)
小倉真由美, 木村捷二郎, 他	日本茶付着微生物の製造工程分布と放射線感受性	食品照射, 37 , 1 (2002)
山田剛司, 沼田 敦, 他	Determination of the absolute stereostructure of <i>seco</i> -macrosphelide E produced by a fungal strain from a sea hare	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 50 , 303(2002)
山田剛司, 入谷雅士, 箕浦克彦, 沼田 敦, 他	Absolute stereostructures of cell adhesion inhibitors, macrosphelides H and L, from <i>Periconia byssoides</i> OUPS-N133	<i>J. Antibiot.</i> , 55 , 147(2002)
宇佐美吉英, 青木聡子, 原 寿子, 沼田 敦	New dioxopiperazine metabolites from a <i>Fusarium</i> species separated from a marine alga	<i>J. Antibiot.</i> , 55 , 655(2002)
沼田 敦, 岩本千佳, 森藤英昭, 山田剛司, 他	Antineoplastic agents. 489. Isolation and structures of meliastatins 1-5 and related euphane triterpenes from the tree <i>Melia dubia</i>	<i>J. Nat. Prod.</i> , 65 , 1886(2002)
山田剛司, 岩本千佳, 山垣直子, 山内貴子, 箕浦克彦, 沼田 敦, 他	Leptosins M-N ₁ , cytotoxic metabolites from a <i>Leptosphaeria</i> species separated from a marine alga. Structure determination and biological activities	<i>Tetrahedron</i> , 58 , 479(2002)
山田剛司, 箕浦克彦, 沼田 敦	Halichoblelide, a potent cytotoxic macrolide from a <i>Streptomyces</i> species separated from a marine fish	<i>Tetrahedron Lett.</i> , 43 , 1721(2002)
箕浦克彦, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Amphipathic helical behavior of the third repeat fragment in the tau microtubule-binding domain, studied by ¹ H NMR spectroscopy	<i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> 294 , 210(2002)
春沢信哉, 小藪修持, 井上泰利, 荒木理佐, 栗原拓史, 他	An efficient and convenient synthesis of 4-vinylimidazoles using a novel Horner-Wadsworth-Emmons (HWE) reagent: synthetic studies toward novel histamine H ₃ ligands.	<i>Synthesis</i> , 8 , 1072(2002)
浦田秀仁, 郷真貴子, 応本憲彦, 箕浦克彦, 赤木昌夫	Helical structure of heterochiral RNA dimers: helical sense of ApA is determined by chirality of 3' -end residue	<i>Chem. Commun.</i> , 2002 , 544(2002)

著 者	題 目	掲 載 誌
赤木昌夫, 大前大智, 田村喜則, 上田哲次郎, 熊代哲也, 浦田秀仁	A practical synthesis of L -ribose	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 50 , 866,(2002)
浦田秀仁, 郷真貴子, 応本憲彦, 赤木昌夫	ヘテロキラル Adenyl-(3'-5')-adenosine のらせん 構造および poly (u) との三重鎖形成能	<i>Viva Origino</i> , 30 , 173(2002)
三野芳紀	Amino Acid Sequences of Ferredoxins from <i>Scopolia japonica</i> and <i>Lycium chinense</i> : Their Similarities to That of <i>Datura arborea</i>	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 25 , 1367(2002)
草野源次郎, 織原志帆, 塚本大介, 芝野真喜雄, 他	Five new nortropane alkaloids and six new amino acids from the fruit of <i>Morus alba</i> Linne growing in Turkey	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 50 , 185(2002)
芝野真喜雄, 塚本大介, 草野源次郎	Polyhydroxylated alkaloids with lipophilic moieties as glycosidase inhibitors from higher plants	<i>Heterocycles</i> , 57 , 1539(2002)
草野源次郎, 高口 茂, 芝野真喜雄, 他	Studies on index compounds for HPLC analysis of <i>Glycyrrhiza flavescens</i> growing in Turkey	<i>Nat. Med.</i> , 56 , 129(2002)
谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	Antitumor and antimetastaic effects on liver of triterpenoid fraction of <i>Ganoderma lucidum</i> : Mechanism of action and isolation of an active substance	<i>Anticancer Res.</i> , 22 , 3309(2002)
田中麗子, 他	A new synthesis of a potent cancer chemopreventive agent, 13-oxo-15, 16-dinorlabda-8(17), 11E-dien-19-oic acid from transcommunic acid	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 50 , 1625(2002)
和田俊一, 田中麗子, 他	Triterpenoid constituents isolated from the bark of <i>Abies sachalinensis</i>	<i>J. Nat. Prod.</i> , 65 , 1657(2002)
南 俊史, 和田俊一, 田中麗子, 他	Potential antitumor-promotiong diterpenes from the cones of <i>Pinus luchuensis</i>	<i>J. Nat. Prod.</i> , 65 , 1921(2002)
南 俊史, 岩本 学, 大津博則, 大石宏文, 田中麗子, 吉武 彬	Aromatase inhibitory activities of stadishinal and the diterpenoids from the bark of <i>Thuja standishii</i>	<i>Planta Medica</i> , 68 , 742(2002)
田中麗子, 松永春洋, 吉武 彬, 他	Lack of modificaton of rat hepatocarcinogenesis by fernane-type triterpenoids, isolated from a <i>Euphorbia</i> genus	<i>Teratogenesis, Carcinogenesis, Mutagenesis</i> , 22 , 293(2002)
田中麗子, 辻本和広, 尹 康子, 石田寿昌, 松永春洋, 他	Jezeanalans A and B : two novel skeletal triterpene aldehydes from the stem bark of <i>Picea jezoensis</i> var. <i>jezoensis</i>	<i>Tetrahedron</i> , 58 , 2505(2002)
奥村幸司, 井上晴嗣, 池田 潔, 林 恭三	Identification of β -type phospholipase A_2 inhibitor in a nonvenomous snake, <i>Elaphe quadrivirgata</i>	<i>Arch. Biochem. Biophys.</i> , 408 , 124, (2002)
藤井 忍, 池田 潔, 他	Synthesis of sphingomyelin carbon analogues as sphingomyelinase inhibitors	<i>J. Org. Chem.</i> , 67 , 4839(2002)
藤本陽子, 佐久間覚, 井上智絵, 宇野絵理子, 藤田 直	The endocrine disruptor nonylphenol preferentially blocks cyclooxygenase-1	<i>Life Sci.</i> , 70 , 2209(2002)
福中泰紀, 岩永一範, 掛見正郎, 他	Controlled Release of Plasmid DNA from Cationized gelatin hydrogels based on hydrogel degradation	<i>J. Control. Rel.</i> , 80 , 333(2002)

著 者	題 目	掲 載 誌
三宅久美子, 宮崎 誠, 掛見正郎, 他	カルベジロールの体内動態と血圧降下作用に関する 速度論的研究—血圧調節機構を含んだPK-PDの解析—	TDM研究, 19 , 329(2002)
米澤恵美, 田中一彦, 他	Lack of interaction between amiodarone and mexiletine in cardiac arrhythmia patients	<i>J. Clin. Pharmacol.</i> , 42 , 342(2002)
川井仁之, 米澤恵美, 田中一彦, 他	Impairment of ciprofloxacin absorption by calcium polycarbophil	<i>J. Clin. Pharmacol.</i> , 42 , 806(2002)
上西幸治, 川井仁之, 田中一彦, 他	Impairment of mycophenolate mofetil absorption by calcium polycarbophil	<i>J. Clin. Pharmacol.</i> , 42 , 1275(2002)
田中一彦, 他	プロポフォールの再灌流不整脈に及ぼす影響	循環制御, 23 , 153(2002)
寺井志織, 瀬川文里, 西堀崇子, 廣谷芳彦, 田中一彦, 他	局所麻酔薬プロピカインのR (+) 体、ラセミ体お よびS (-) 体の心機能への影響	循環制御, 23 , 404(2002)
田中一彦, 他	院内ネットワークにおけるTDMデータベースの作 成	TDM研究, 19 , 268(2002)
奥井朝子, 松村靖夫, 他	Effects of L-carnosine on renal sympathetic nerve activity and DOCA-salt hypertension in rats	<i>Autonomic Neuroscience : Basic & Clinical</i> , 97 , 99(2002)
中野大介, 伊藤千恵, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Antihypertensive effect of sesamin. IV. Inhibition of vascular superoxide production by sesamin	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 25 , 1247(2002)
松村靖夫, 喜多紗斗美, 他	Preventive effect of a chicken extract on the development of hypertension in stroke-prone spontaneously hypertensive rats	<i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> , 66 , 1108(2002)
高岡昌徳, 大喜多守, 小林 豊, 弓場実規広, 松村靖夫	Protective effect of α -lipoic acid against ischaemic acute renal failure in rats	<i>Clin. Exp. Pharmacol. Physiol.</i> , 29 , 189(2002)
松村靖夫, 山下潤二, 尾形政哉, 高岡昌徳, 他	Pathological role of Ca^{2+} overload via the $\text{Na}^{+}/\text{Ca}^{2+}$ exchanger and endothelin-1 overproduction in ischaemia / reperfusion-induced acute renal failure	<i>Clin. Sci.</i> , 103 (Suppl. 48), 389S(2002)
大喜多守, 高岡昌徳, 塩田恭子, 野尻瑠美, 松村靖夫	Nitric oxide inhibits endothelin-1 production through the suppression of nuclear factor κB	<i>Clin. Sci.</i> , 103 (Suppl. 48), 68S(2002)
高岡昌徳, 弓場実規広, 藤井俊秀, 大喜多守, 松村靖夫	Oestrogen protects against ischaemic acute renal failure in rats by suppressing renal endothelin-1 overproduction	<i>Clin. Sci.</i> , 103 (Suppl. 48), 434S(2002)
小西文子, 岡田有加, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Role of endothelin ET_B receptors in the renal hemodynamic and excretory responses to big endothelin-1	<i>Eur. J. Pharmacol.</i> , 451 , 177(2002)
大喜多守, 高岡昌徳, 小林 豊, 伊藤江利子, 上町浩子, 松村靖夫	Involvement of proteasome in endothelin-1 production in cultured vascular endothelial cells	<i>Jpn. J. Pharmacol.</i> , 88 , 197(2002)
大喜多守, 高岡昌徳, 塩田恭子, 野尻瑠美, 杉井真人, 松村靖夫	A nuclear factor- κB inhibitor BAY11-7082 suppresses endothelin-1 production in cultured vascular endothelial cells	<i>Jpn. J. Pharmacol.</i> , 89 , 81(2002)

著 者	題 目	掲 載 誌
西田昌広, 家島美幸, 小西文子, 山下潤二, 高岡昌徳, 松村靖夫	Role of endothelin B receptor in the pathogenesis of ischemic acute renal failure	<i>J. Cardiovasc. Pharmacol.</i> , 40 , 586(2002)
幸田祐佳, 玄番宗一	Enhancement of protein kinase C activity and chemiluminescence intensity in mitochondria isolated from the kidney cortex of rats treated with cephaloridine	<i>Biochem. Pharmacol.</i> , 64 , 543(2002)
中村益久, 幸田祐佳, 玄番宗一, 他	Effects of efonidipine hydrochloride on renal arteriolar diameter in spontaneously hypertensive rats	<i>Hypertens Res.</i> , 25 , 751(2002)
河合悦子, 玄番宗一, 他	シスプラチンによるフリーラジカル性腎細胞障害に対するサイクリックAMPの影響	磁気共鳴と医学, 13 , 84(2002)
辻坊 裕, 折越英介, 馬場 直, 宮原大朗, 宮本勝城, 安田正秀, 稲森善彦	Identification and characterization of the gene cluster involved in chitin degradation in a marine bacterium, <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7	<i>Appl. Environ. Microbiol.</i> , 68 , 263(2002)
宮本勝城, 抜井栄二, 廣瀬真理子, 長井 史, 佐藤卓史, 稲森善彦, 辻坊 裕	A metalloprotease (MprIII) involved in the chitinolytic system of a marine bacterium, <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7	<i>Appl. Environ. Microbiol.</i> , 68 , 5563(2002)
宮本勝城, 辻坊 裕, 抜井栄二, 伊藤浩之, 海津嘉彦, 稲森善彦	Isolation and characterization of the genes encoding two metalloproteases (MprI and MprII) from a marine bacterium, <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7	<i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> , 66 , 416(2002)
辻坊 裕, 高田千秋, 若松佳子, 小阪光生, 辻 明彦, 宮本勝城, 稲森善彦	Cloning and expression of an α -L-arabinofuranosidase gene (<i>strIV</i>) from <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520, and characterization of the enzyme	<i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> , 66 , 434(2002)
辻坊 裕, 宮本勝城, 吉村麻記子, 高田美和, 宮本淳子, 稲森善彦	Molecular cloning of the gene encoding a novel β -N-acetylhexosaminidase from a marine bacterium, <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7, and characterization of the cloned enzyme	<i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> , 66 , 471(2002)
松村瑛子, 辻坊 裕, 安田正秀, 稲森善彦, 他	Biological activity of 4-acetyltropolone, the minor component of <i>Thujopsis dolabrata</i> SIEB. et ZUCC. <i>hondai</i> MAK	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 25 , 981(2002)
宮本勝城, 抜井栄二, 伊藤浩之, 佐藤卓史, 稲森善彦, 辻坊 裕, 他	Molecular analysis of the gene encoding a novel chitin-binding protease from <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7, and its role in the chitinolytic system	<i>J. Bacteriol.</i> , 184 , 1865(2002)
松村瑛子, 片山 哲, 他	New lanostanoids, elfvingic acids A-H, from the fruit body of <i>Elfvigia applanata</i>	<i>J. Nat. Prod.</i> , 65 , 548(2002)
濱中久美子	„Plus ultra”における愛について	ぱいでいあ, 26 , 115(2002)

2. 総説・解説

著 者	題 目	書名または掲載誌 (出版社)
友尾幸司	蛋白質結晶構造解析の概要と実例	<i>Foods Food Ingredients J. Jpn.</i> , 203, 4(2002)
木村捷二郎, 他	我国における委託照射施設の紹介(その1) -ガンマ線照射施設-	防菌防黴誌, 30, 393(2002)
木村捷二郎	我国における委託照射施設の紹介(その2) -電子線照射施設-	防菌防黴誌, 30, 431(2002)
谷口雅彦, 馬場きみ江	天然フラノクマリン類の薬物代謝酵素 CYP3A4 に対する阻害活性について	<i>Foods Food ingredients J. Jpn.</i> , 203, 34(2002)
馬場きみ江	アシタバ	KAMPO EYES, 4, 18(2002)
馬場きみ江	アシタバ	日経ヘルス, 57, 68(2002)
馬場きみ江	健康野菜アシタバ	<i>New Food Industry</i> , 44, 51(2002)
馬場きみ江	健康野菜アシタバの成分と効用	薬用植物研究, 24, 12(2001)
馬場きみ江	伊豆諸島の薬用植物-アシタバを中心に	薬用植物の宝庫 伊豆, 48(2002)
藤井 忍, 池田 潔	スフィンゴミエリナーゼ:セラミド産生に関わる酵素	<i>Foods Food Ingredients J. Jpn.</i> , 203, 17(2002)
田中一彦	臨床薬剤学	薬学図書館, 47, 93(2002)
楠瀬健昭	書評 Terry R. Wright, <i>D. H. Lawrence and the Bible</i> (Cambridge University Press, 2000)	D. H. ロレンス研究 (日本ロレンス協会), 12, 35(2002)

3. 著書

著 者	題 目	出 版 社
石田寿昌, 他	薬学のための物理化学	化学同人, (2002)
藤田芳一, 他	生命倫理事典	太陽出版, (2002)
千熊正彦, 他編集	分析化学 I (改定第 5 版)	南江堂, (2002)
千熊正彦, 齋藤睦弘	分析化学 I (改定第 5 版) 第 III 章 錯体化学	南江堂, (2002)
千熊正彦	分析化学 II (改定第 5 版) 第 I 章 1-6 原子スペクトル分光法	南江堂, (2002)
大桃善朗, 他	新放射化学・放射性医薬品学, 第 7 章 放射性医薬品	南江堂, 123, (2002)
赤木昌夫, 田中麗子, 他	医薬化学 第 3 版	廣川書店, (2002)
草野源次郎, 芝野真喜雄	青花の薬効-特に糖尿病予防に有効な生薬-	健全社, (2002)
馬場きみ江, 他	医療における漢方・生薬学	廣川書店, (2002)
馬場きみ江	生薬成分の化学 (3) -セリ科植物の成分-	漢方薬・生薬 薬剤師講座テキスト 【追補版-2002】, 72(2002)
馬場きみ江, 他	生薬必携カード 第 2 版	廣川書店, (2002)

著 者	題 目	出 版 社
掛見正郎, 中元安雄, 田中一彦, 西野隆雄	近畿地区薬学部学生実務実習に関する協議会編 「薬学生のための病院・薬局実務実習の手引き 2002年版」	じほう社, (2002)
掛見正郎, 中元安雄, 田中一彦, 西野隆雄	近畿地区薬学部学生実務実習に関する協議会編 「薬学生のための病院・薬局実務実習の手引き 2003年版」	じほう社, (2002)
掛見正郎, 他	辻 彰編「薬剤師のための常用医薬品情報集 2002年版」	廣川書店, (2002)
山下潤二, 尾形政哉, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	腎とフリーラジカル 第6集, P190	東京医学社, (2002)
高岡昌徳, 小林 豊, 弓場実規広, 伊藤 誠, 大喜多守, 松村靖夫	腎とフリーラジカル 第6集, P194	東京医学社, (2002)
弓場実規広, 高岡昌徳, 藤井俊秀, 柴田裕次郎, 松村靖夫	腎とフリーラジカル 第6集, P197	東京医学社, (2002)
幸田祐佳, 玄番宗一, 他	腎とフリーラジカル 第6集, P211	東京医学社, (2002)
玄番宗一, 中村益久, 他	薬物治療学(改訂版)	エルゼビア・サイエンス(2002)
松村瑛子, 安田正秀	基礎固め 生物	化学同人, (2002)
当麻成人, 他	スポーツ動作学入門	市村出版, (2002)

4. その他

著 者	題 目	書名または掲載誌
千熊正彦	近畿支部	ぶんせき(日本分析化学会創立50周年記念誌) 41, 44(2002)
木村捷二郎	生薬の品質保証に関する研究会報告集(No, 2)	放射線照射利用促進協議会, (2002)

薬

発行

大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1

TEL (072) 690-1019(入試・広報課)

FAX (072) 690-1018(”)

URL : <http://www.oups.ac.jp/>